



第 139 号

平成22年1月29日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



丹頂鶴 (鶴居村)

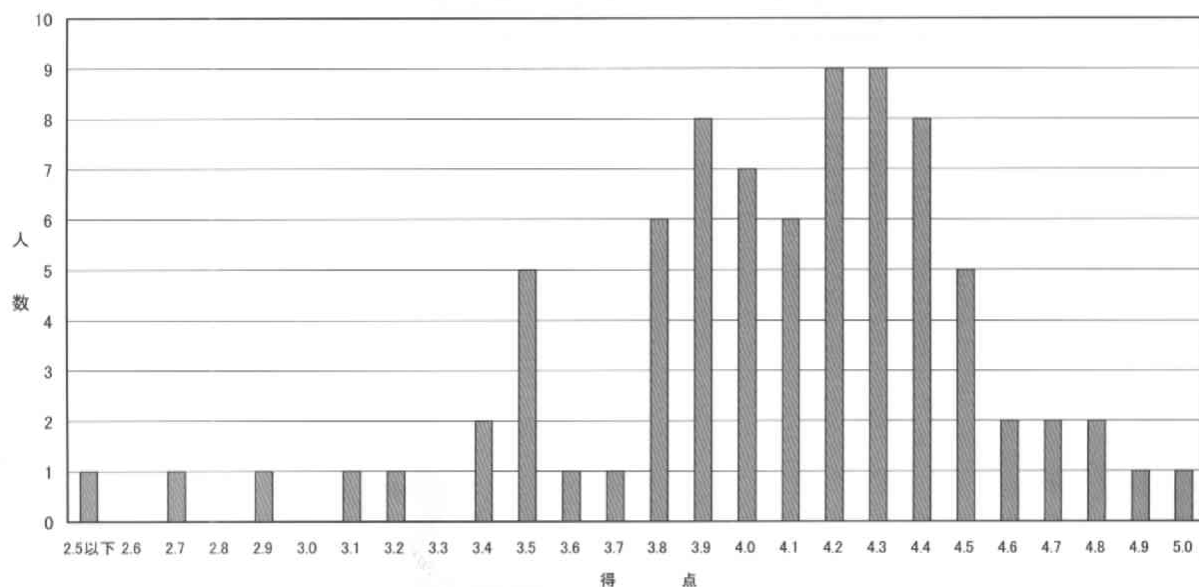
(写真撮影：学生支援課)

授業評価 (平成21年度前期)	2
(平成20年度)	16
医学科第2学年後期編入学生入学式	40
クリスマスコンサート (室内合奏団)	40
(合唱部)	41
(ブラスアンサンブル)	41
教員の異動	42
外国人留学生交流事業	42
平成22年度授業料の一括納付について	42

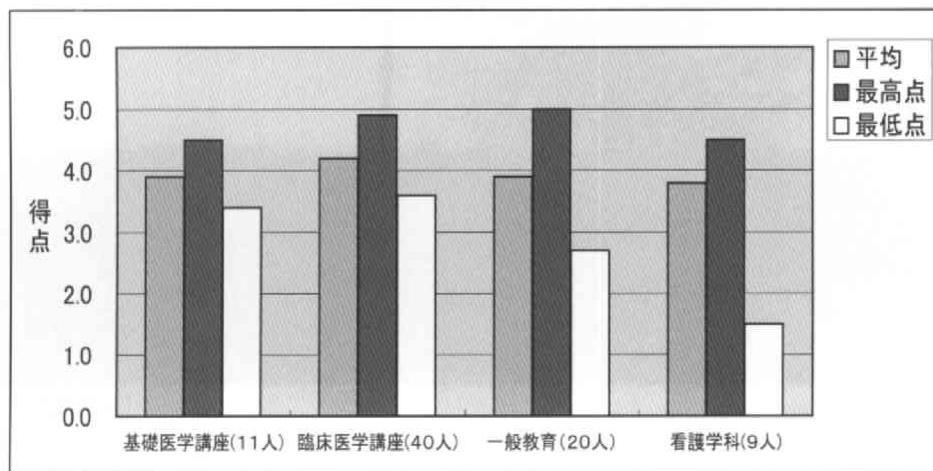
平成21年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	1	0	1	0	1	0	1	1	0	2	5	1	1	6	8	7	6	9	9	8	5	2	2	2	1	1

(実施人数80名 平均4.0)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

1

非常勤講師 吉地 望

科目名：地域社会論（医学科・看護学科1・2学年前期／選択）

日時：平成21年8月26日（水）2講目

履修者数：7 配付数：7 回収数：5 回収率：71.4%

*評価結果（平均） 5.00

*評価に対するコメント

この度は、すばらしい評価を頂きありがとうございます。地域社会論の講義初年度ということもあり、受講者数は予想よりも少なかったのですが、学生さんの意欲と真摯な態度のお陰で、よい雰囲気の中講義を行うことができました。講義を始めるにあたって、旭川市に馴染みの薄い方には、旭川市を知る機会にして頂きたいという思いと、馴染みの薄い方から見た旭川は、どのような課題を抱えているかについて、率直な意見を聞くことのできるよい機会にしたいと考えておりました。評価はレポートで行いましたが、そこから得られた意見は今後の旭川市の発展を考える上で有意義なものであり、私の想像を超えるものでした。これから地域社会・医療の中核を担う学生さん達が、これほどのアイデアや地域貢献に対する意欲を持っている事を知り、私自身大いに勇気づけられました。今後、講義で学んだことが少しでも地域社会・医療を考える上で役に立つならば、これに勝る喜びはありません。

2

内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野） 藤谷 幹 浩

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

日時：平成21年9月1日（火）2講目

履修者数：103 配付数：59 回収数：59 回収率：100%

*評価結果（平均） 4.86

*評価に対するコメント

学生のころ、自分が講義をするようになるとは思ってもよらず、よく寝ていましたが、それでも印象に残っている先生が何人かいました。みんな、それまで聞いたことがないような、臨床の現場のお話を面白く教えてくれる先生方でした。そして、情熱が伝わってくる講義でした。いま、そんな講義ができるように、努力しています。消化器病、特に内視鏡の分野は、日本が世界をリードしている領域です。常に最新の情報をみなさんに発信するようにがんばっていきこうと思います。消化器診療の面白さを、奥深さを、一緒に楽しく勉強していきましょう。

3

小児科学講座 荒木 章 子

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）

日時：平成21年4月22日（水）2講目

履修者数：93 配付数：93 回収数：47 回収率：50.5%

*評価結果（平均） 4.79

*評価に対するコメント

今回、私の講義を評価していただいたことを大変嬉しく思います。

私が、講義に際して意識していることは、臨場感と具体性です。“自閉症スペクトラムのお子さんは、知的発達に比して想像力が伸びにくい”と、覚えるだけよりも、実際に自閉症スペクトラムのお子さんが書いた絵を想像力の現れとして見たり、ADHDのお子さんの治療前後の板書の変化をみたことで、私が意図した事がよりの確に伝わったのではないかと思います。難しい専門用語と定義や診断基準、検査法、治療などを覚えていくことは、もちろん重要なことです。その前提で、臨場感を伴うことで興味が、概念的すぎずに具体性が高いことで理解が進むのではないかと考えています。

そして、できれば私が講義をした分野に、より深い興味をもって、将来は一緒に仕事をしてくれる人たちが出てきてくれたら……というかなり淡い期待も抱きつつ講義をしています。

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題問および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：102 配付数：99 回収数：98 回収率：99.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.5	3.7	2.2	3.9	4.3	3.9	4.3	4.1	4.1	4.0	4.1	3.7	4.3

*評価に対するコメント

心理学コーディネーター 高橋 雅 治

本講義の目的は、全人的な医療を実践するために必要な心理学の基礎知識を体系的に修得することである。講義は基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野からなり、コーディネーター自身が全講義を担当した。

科目構成（問5から問8）の評価結果は3.9から4.3と良好であり、科目内容（問9から問13）の評価も3.7から4.1と高かった。しかし、コメント欄では、「速すぎる」、「内容が多すぎる」という意見が散見された。一方、総合評価は4.3と高い結果であった。

全体的に高い評価が得られた理由としては、各分野の基礎知識を精査して講義したこと、プリントを毎回配布したこと、全てのプリントを綴じると心理学の入門書となるように全体を構成したこと等が考えられる。一方、内容が多すぎる、速すぎると感じる学生がいたことは、次年度以降の反省材料とし、講義内容の変更を検討したい。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：102 配付数：100 回収数：94 回収率：94.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.7	3.7	2.1	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.2	3.5

*評価に対するコメント

地域医療学コーディネーター 藤 尾 均

カリキュラム改定に伴って今年度新たに開講された医学科1年生の必修科目である。学生各自が北海道の地域医療の現状と課題を理解し将来展望に活かすことをねらいとしている。まず筆者（藤尾）がガイダンスを1コマ実施、翌週は本学の竹中泰英非常勤理事が財政学者の立場から講演し、さらに翌週から、実際に地域医療の現場で御苦労されている本学卒業生6名（平元東、橋本政明、和泉裕一、丸山純一、宮本光明、竹居田和之の各氏）がそれぞれ独自の視点から講演した。講演の内容も形式も演者の裁量に委ねたため、バラつきがあり、よくいえばバラエティーに富んでいたが悪くいうとまとまりがなかった。講演の様子は演者の了解を得て本学学術成果リポジトリからダイジェスト版を発信中である。平均値は表のとおりであるが、自由記載欄を合わせ読むと、面白くて将来への動機付けになったなどとするポジティブ派と、あまり役には立たなかったとするネガティブ派とに大きく二分された。演者に積極的に質問をする学生の顔ぶれもほぼ固定された。期末に学生に課題レポート（800字程度×3問）を課したが、その出来栄も大きく二分された。来年度に向けどう改善していくか、苦慮しているところである。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：103 配付数：97 回収数：88 回収率：90.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.5	4.3	3.3	3.7	4.1	3.8	4.0	3.1	2.9	3.5	3.1	3.4	3.3

***評価に対するコメント**

情報統計学コーディネーター **山内 一也**

情報統計学の授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。コンピューターリテラシーはクラスをA組、B組の2クラスに分け、担当教官には負担増となるが、週2回の授業を展開している。「あなた自身について」という評価の項では、2.5、4.5、4.3、3.3という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、3.7、4.1、3.8、4.0という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.1、2.9、3.5、3.1、3.4と前回は少し下回る評価であった。「総合評価」では3.3という評価なのでまあまあ評価を受けたと考えられる。

科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：83 配付数：80 回収数：75 回収率：93.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.1	3.1	2.7	3.4	3.6	3.7	3.7	3.6	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4

***評価に対するコメント**

社会医学基礎Ⅲコーディネーター **田中 剛**

医療面接は正確な診断と適切な治療の勧め以上のものを含んでいる、としばしばいわれる。本科目では従来より、医療コミュニケーションの重要性が、単なる医療面接の具体的場面における個々のプロセスのみ存するのではなく、それとその背景をなしている社会的認知領域との双方に関わる複合的視座にも存すること、そしてこの視座が前者を支えていることを伝える努力をしてきた。対人コミュニケーションのコア・スキルは、2002年以来ACGME(米国医学教育学会)によって提起され、必修の追加能力として医学教育カリキュラムのなかで実践されている。わが国はやや遅れている。本科目の受講者の認識も、講義と実習とが実戦形式で、しかも臨床の協力も得てなされるならば大きく改善されるであろう。評価については、その意味で物足りない。今後、新カリキュラムのなかでより進化を遂げねばならないと考えている。

科目名：生命科学Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：84 配付数：49 回収数：73 回収率：92.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	3.6	3.4	3.8	3.8	3.6	3.9	3.6	3.4	3.6	3.5	3.6	3.6

***評価に対するコメント**

生命科学Ⅷコーディネーター **鈴木 裕**

生命科学Ⅷは生命科学Ⅹおよび基礎医学Ⅰといった一連の基礎医学系科目の出発点として、また生命科学実習Ⅵ（生化学実習）実施のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらの異常による病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する“生化学”の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良してきました。今年度は特に、講義ごとの小課題により重要ポイントを復習していただき、また講義日程終了後でしかも生命科学実習Ⅵ（生化学実習）の開始前に単位認定試験を実施することにより学習効果を高めるよう、講師一同力を入れました。受講者全員が本試験で合格したこと、また、授業評価の自由記載（小課題と試験時期について）からも、その意図は達成されていると判断されます。今後も、さらに、授業、配布資料、小課題内容と数、試験内容について工夫と改良を加えていきたいと考えています。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣をさらに徹底していただきたいと思えます。

科目名：生命科学K（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：84 配付数：81 回収数：65 回収率：80.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.8	3.4	3.1	3.8	3.8	3.6	4.0	3.2	3.1	3.6	3.4	3.3	3.5

***評価に対するコメント**

生命科学Kコーディネーター 柏柳 誠

教官の講義に対する評価項目である問5～14の平均は、2006年3.9や2007年3.8と比べて2008年3.4と今年3.5とやや低下したままだった。昨年度に続いて問9および問10の講義の難易度に関する評価がそれぞれ3.2と3.1と低かったことがこの原因と思われる。但し、昨年の自由記載欄に「講義にもちいたパワーポイントあるいはプリント」に関する意見が3件あったが、今年度は1件のみだった。従って、昨年に学生から提示された課題を克服するために、生命科学Kを講義する各教員がパワーポイントファイルあるいはプリントの改善を行い、学生が分かりやすいように工夫がなされたと思われる。また、自由記載欄の中に試験の難度に関する意見も記載されていた。本科目にとどまらないが、過去問を中心とした勉強が足りない傾向を反映した意見であったと思われる。教員の講義に対する改善努力だけではなく、学生諸君の勉学に対するさらなる改善意欲も必要と感じた。

科目名：生命科学X（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：84 配付数：76 回収数：73 回収率：96.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.5	3.2	2.4	3.4	3.0	3.5	3.6	3.2	2.9	3.5	3.5	3.3	3.5

***評価に対するコメント**

生命科学Xコーディネーター 立野 正敏

科目構成についての問5～8について、評価ポイントは3.0～3.6であった。また科目内容については、問9～13では2.9～3.5ポイントとなった。免疫学は、生命科学の分野でも技術的用語の豊富さ、複雑さがあり、定義やシステムを理解し、自分のものにするために積極的に取り組むことと自習による理解が不可欠である。講義内容としては、自然免疫から獲得免疫、臨床免疫学までを広くカバーしているため、学生の自学自習の取り組み方で理解度に差が生じると考えられる。学生の自学自習の自己評価ポイントも問1（2.4）、問4（2.4）と昨年よりさらに低く、積極的に取り組む姿勢が必要と思われる。講義内容では、学生にとって難解な部分、重複した内容についての時間配分、構成について再度検討していく。また、中間テストを導入し、内容のまとめ、理解を段階的に行えるようにする方向で検討する。

科目名：生命科学XI（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：84 配付数：83 回収数：65 回収率：78.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.7	3.2	2.6	3.5	3.1	3.5	3.7	3.2	3.1	3.4	3.3	3.3	3.4

***評価に対するコメント**

生命科学XIコーディネーター 田中 邦雄

本科目は平成15年度から開講され、今年度が最後となる。本科目は最新の画像診断技術を中心に、医用工学をはじめ放射線物理学など第2学年の学生にとってはあまりなじみのない広い内容を含んでいる。講義の内容、進め方はほぼ例年通りである。学生自身についての評価は各問とも年々低下している。また、昨年度より講義開始早々の出席状況は改善されたものの、自らノートをとる学生とそうでない学生とに2極化しているのは相変わらずであり、試験答案の記述内容から他人のノートに頼っている状況が見てとれる。科目構成に関する評点は3.1～3.7と昨年より若干上昇した。また、科目内容については3.1～3.4と昨年とどうの低い評価であったが、総合評価は3.4と昨年（3.0）より上昇した。このことは、前期試験の平均点（65点）の上昇、再試験該当者の減と関連するものと考えられる。

科目名：臨床医学概論Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：101 回収数：88 回収率：87.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.3	3.6	2.7	3.6	3.6	3.7	3.9	3.9	4.0	3.8	3.5	3.7	3.8

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅰコーディネーター **吉田 貴彦**

従来第4学年で展開された旧衛生学、公衆衛生学、法医学領域の講義が再編され、新カリとして第4学年での「社会医学」と、第3学年での「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」の前期分に相当する科目として設定され、医師の名義貸し問題の発生などを受けて社会医学系の内容のうち倫理的な側面を多く持つものから構成することが当初の本科目編成の趣旨であった。衛生、公衆衛生、法医、医の倫理、医事法制と広い範囲をオムニバス方式で展開するために統一性を出しにくいことが、総合評価、科目全体の履修目的の評価の低さ（評価3.8）につながっていると思われる。また、科目名と内容が乖離していることは事実で、次のカリキュラム検討の際には科目展開の全体を見通して注意する事としたい。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：95 回収数：68 回収率：71.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.8	3.1	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	3.9	4.0	3.8	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

医療情報学コーディネーター **廣川 博之**

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域であるが、理論的、技術的な事項より、臨床に関連するような具体的な事例等に時間を割いた。

問5～14の項目は4点前後であり、講義全体の構成、内容についてはほぼ適切だったと思われる。しかし、数名が内容を理解しにくい、学習意欲を増すものでないといった評価をしていた。講義内容について学生諸君が興味を持ち、学習意欲を増す工夫を今後検討したい。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：92 回収数：66 回収率：71.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.5	3.9	3.2	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

臨床医学序論コーディネーター **奥村 利勝**

各臨床講座の全体像の紹介（例 内科学とは）で講義を構築してきました。臨床医学全体像を見渡す意味では各論の前に行われる意義は大きいと考えております。授業評価に関しては、全体的な満足度が4.1で昨年の3.8に比べると若干増加しておりますが、未だ満足できるものではありません。回収数66人の中で、大変良いが26名、良いが21名で回収分の約7割の学生がこの解答であり、学生には時期／内容ともに問題なかったと考えてます。興味を持った臨床分野についてのレポートをみても、それぞれの学生の興味が広く分布していることもわかり、このような臨床の総論的な講義は今後の参考になると考えます。しかし、個人的な意見の中には「あまり学べるものがなかった」とのコメントもあり、この時期にこの内容の講義を開講するか否か、もっと集中的に行うべきなのか、カリキュラム全体に関わる問題でもあります。

科目名：臓器別・系別講義Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：97 回収数：44 回収率：45.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	3.7	3.7	3.1	3.8	3.2	3.3	3.7	3.3	3.4	3.5	3.8	3.1	3.5

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅰコーディネーター **笹嶋唯博**

各質問項目とも3点台の評価で、学生にとって講義と試験に関するある程度の改善要求のあることが伺われる。過密な講義スケジュールや試験問題を必ずしも講義が網羅しておらず問題が難しいなどの不満がある一方、毎回指摘されてきた教官間の調整不足による講義内容の重複は逆に復習になって良いと言う意見があった。講義には理解を容易にするため一定のストーリーが必要であり、重複が避けられない部分もあるのでそのような指摘は歓迎される。試験問題の難しさや講義になかった出題などの点に対する不満は、十分理解できるが、近代医学の膨大な知見を講義で網羅することは不可能であり、講義を基本に関連領域を各自で学習し医学知識の幅を広げて頂くしかないであろう。それ故医学生が日夜勉学に励むのは世界共通の光景であるが、それを克服して到達するのが医師であり、それだからこそ存在価値が高いのである。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：78 回収数：59 回収率：75.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	3.9	3.9	3.3	4.0	3.8	3.9	4.0	3.8	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅳコーディネーター **河野透**

企画に対する学生評価のアンケート調査で、科目内容に関する問いが用意されており、科目履修の達成、今後の学習意欲、試験などであるが、企画における最低限の目標となる履修目的が達成されたかという質問に対して平均点4点であり、今後はもう少し上げる工夫、努力が必要であると思える結果でした。また、内容の過度な重複という点では平均点3.8とかなり悪い成績で、講義内容について教師側で重複しないように情報交換をする必要があると思える結果でした。学生側においては予習など個人の努力に関して半数がしていないと答えており、個人の努力、意欲によって大きく左右される項目であるが、授業時間などにゆとりが必要なのかもしれない。最後に、講義を担当していただいた先生方に深謝いたします。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：77 回収数：43 回収率：55.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.8	3.4	2.2	3.7	3.9	3.6	3.9	3.7	3.8	3.6	3.2	3.5	3.3

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅲコーディネーター **奥村利勝**

必修コース「医学概論Ⅲ」は臨床の現場では特に重要であるコメディカルの業務を理解し、チーム医療の重要性を認識してもらう狙いがある。4年生の前臨床実習の段階でのコースであり、本コースでの各コメディカルのお話は臨床実習以降の充実につながることを期待している。今年の総合評価は過去の3点台後半に比べて、明らかに低い3.3であった。過去数年と比べて、コースの内容に大きな変更がなかったことから、マイナス要素が判然としないが、この低評価を受け止め、満足度の高いコースへ工夫する必要がある。しかし、本コース以外には卒前卒後にもまとめてコメディカルから直接、各部門の業務についてを聞く機会はないと思われる。卒後臨床医として第1線で働く際には、このコースで勉強した事が各自の役に立つものと信じている。卒後数年たってからの、本コースの再評価も見てみたい。

科目名：社会医学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：93 回収数：37 回収率：39.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	3.8	3.5	2.8	3.5	3.5	3.6	3.6	3.4	3.4	3.5	3.3	3.2	3.3

***評価に対するコメント**

社会医学コーディネーター **吉田貴彦**

衛生学・公衆衛生学・法医学からなる社会医学領域の講義は、「社会医学」と3学年の「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」としてオムニバス授業で展開される。双方とも臨床医学的な領域から、保健医療統計・疫学、医療行政・法規など広い領域にわたり、比較的理解しやすい範囲を集め3学年に展開するため、科目毎に統一性が無く全体像を捉え難い面は否定できない。また、医学・医療を社会とのつながりの視点から学習するものであり、疾病側から見ると臨床医学とダブるよう見られやすい。総合評価を始め多くの項目で昨年、一昨を下回った。評価票の回収率が約4割（例年8割程度）と極めて低いために判断しづらいが、試験問題が難しいとの評価（問13：3.2）・自由記載の指摘があり、試験時に評価が行われたことも影響したものと思われる。カリキュラム2009では科目別展開、4学年への集約が図られることを受け、前倒しで改善を検討したい。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：88 回収数：80 回収率：90.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.8	2.9	3.8	4.0	3.8	3.9	3.6	3.4	3.6	3.6	3.4	3.6

***評価に対するコメント**

臨床放射線学コーディネーター **油野民雄**

当科目では核医学、放射線診断学、放射線治療学を15コマ、9名（非常勤1名）の教官によって担当させて頂いた。近年の放射線診断・治療における機器・技術の進歩に合わせて、盛りだくさんの内容であったと思われる。学生からの評価はおおむね良好であったが、「学生自身」の評価で予習、復習の項目が2点台（最高5点）と低い結果であった。「科目構成」は4点前後と比較的高く、「科目内容」では、講義内容の理解度と試験内容・量がやや低い結果であった。学生からの感想では、講義内容が難しく、量が多いとするものや、逆に充実していて面白かったとするものがあった。全体としては、画像の読影・解析に関する講義や配布資料の充実を求める声が多く、その背景として初学者向けの良い教科書がないという意見があった。来年度は、臨床につながる講義を目指し、その内容や配布資料を充実させ、学生の理解を増えるようさらに努力していきたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：94 配付数：33 回収数：26 回収率：78.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	3.7	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	4.0	3.5	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅶコーディネーター **藤枝憲二**

臓器別・系別講義Ⅶは産婦人科、小児科、泌尿器科、小児外科、救急医学の各講座が担当し、産婦人科学から胎児・新生児・小児・思春期における内科的・外科的疾患をreproductive healthやdevelopmental biologyの観点から理解することを目的として設定されたコースである。

本コースが広範囲にわたる難しい授業内容であるにも関わらず、主題のバランスや内容はよく、理解しやすかったとする意見が多く寄せられ、総合評価も昨年度より高かったことは講義担当者の努力とコースの意図が理解されたものと判断される。授業そのものは学習すべき事項の提示にとどまるもので、将来にわたって有益な情報を伝えることを主眼としており、決して試験に合格することが目的ではないことを理解し、より一層の自学自習が必要とされることを再確認してほしい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：93 配付数：90 回収数：22 回収率：24.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	3.9	3.8	3.3	3.6	3.6	3.7	3.6	3.4	3.5	3.6	3.7	3.5	3.6

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅷコーディネーター **杉本昌也**

臓器別・系別講義Ⅷは、麻酔科蘇生科講座、救急医学講座、整形外科科学講座の3科で担当させて頂きました。各科毎に約1週間程度の間、朝から晩まで同一科目の集中講義という形式でした。

アンケートの結果からは、科目構成に関して、履修目的の周知、内容、バランスに関して大きな問題はなかったと判断しております。試験問題の分量が多いとのクレームがありましたが、全分野からの出題となるため、仕方がない部分もあると考えています。今後、検討していく予定です。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：55 回収数：55 回収率：100%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.0	3.5	2.5	3.6	3.7	3.4	3.9	3.1	3.2	3.4	3.6	3.2	3.7

***評価に対するコメント**

生命科学コーディネーター **林 要喜知**

総合評価は3.70であり、さらに授業内容全般にわたって向上させることが求められている。評価が低かった個別項目（問4、9、10、13）には、今後改善を加えていきたい。特に、問4は本科目全体に関するガイダンスが不十分であったため、オムニバス方式で講義を展開する科目であることから大いに反省している。ガイダンスで、科目全体の学習目標や履修要項をしっかりと説明していきたい。また、学習項目において難易度が高いところや試験範囲が膨大であったという科目構成上の問題については、適宜小テストや中間試験を実施し、フィードバックするシステムを導入したいと考えている。質問対応や追加資料の配布、あるいは、補習などでは時間をかけ、学習指導に創意工夫を重ねたい。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.6	3.6	3.9	3.5	3.7	3.3	3.6	3.7	3.4	3.4	2.8	3.0	3.1

***評価に対するコメント**

健康教育論コーディネーター **望月吉勝**

どの教科もそうですが、事前の学習→授業→事後の学習という学習プロセスを学生本人が定着させることが大事です。そこで、教科書をしっかりと読むための予習課題を出し、読みつつ、考えつつ、そして書いて、授業に臨み、レポートとして提出するという手順で進めました。さらに、学習内容に関するシートを作成・配付し、空欄を埋めながら予習できるよう工夫しました。

授業評価票の記述欄に、事前の課題があっても勉強しやすかったと書いた学生がいる一方で、教科書を読んだだけの授業と書いた学生もいました。また、予習用のシートの答合わせをしてほしかったとの記述もありましたが、答は教科書に書いてあることなので、授業では単なる答合わせではなく、体験談も含めて例示し、学習内容の肉付けを図りました。

それでも、わからないとの記述がありましたが、わからないことがあれば、授業中でもその後も質問をすれば良いのに、試験範囲や出題形式など試験に関する質問以外、無かったのが現状です。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：102 配付数：97 回収数：92 回収率：94.8%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.9	4.6	4.3	4.8	4.3	4.7	4.3	4.0	4.6	4.2	3.9	3.7	4.1	4.3	4.5	4.4	4.5

*評価に対するコメント

基礎生物学実習コーディネーター 立野裕幸

総合評価は4.5で、昨年度よりも0.3ポイント上昇しました。この理由として、今年度のカリキュラムの変更によって、A組とB組の実習を分けて実施することが可能になり、常に3～4人の教員で指導ができたこと、それによってスケジュールどおりに実習を進めることができたこと、また、視聴覚機器の更新によって内容の説明がわかりやすくなったことなど、ソフト面とハード面の充実があげられます。この実習では、顕微鏡観察、解剖、DNAの電気泳動など、医学的な内容を多く取り入れ、その中で、実験器具の操作や観察の進め方、レポートの作成法について詳しく学びます。そのため、高校時代に生物実習の経験が少ない学生にとって難しく感じることも多いようです。問12（難易度）と問13（レポート作成）のポイントにそれが表れています。すべての学生が着実に学習成果をあげられるように、これからも実習内容の見直しを行い、指導法に工夫を重ねていきたいと考えています。

科目名：生命科学実習V（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：83 配付数：82 回収数：62 回収率：75.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.2	4.7	4.2	3.9	4.4	4.0	4.4	4.1	4.2	4.1	3.5	3.9	3.5	3.8	3.7	4.1	4.1	4.2

*評価に対するコメント

生命科学実習Vコーディネーター 高橋雅治

学生自身についての評価では、「出席」と「積極的参加」が4.7、4.2と高かったが、「予習」の評価は低かった。今後は、予習の指導につとめたい。

また、実習の計画、内容、環境についての評価は、全項目について3.9から4.4と高い評価が得られた。特に評価が比較的高かった項目は、「スケジュール」と「指導力」でともに4.4であった。このことから、実習全体の全体の進行や指導力は適切であったと思われる。

一方、「技術の取得」や「レポートの量」の評価は3.5と低かった。これらの理由としては、本実習の目的が、技術の取得を目指すだけではないこと、毎週のレポートが学生の負担になっていることなどが考えられる。

また、教員の転出等により、本年度は、心理学分野のコマ数を増やし、かつ、社会学分野の非常勤の窓口を心理学教員が担当することになった。これは相当な負担増であった。しかし、昨年までとは異なり、実習全体の満足度は4.2という高い結果となった。これは、心理学教員が責任をもつコマ数が増えたことにより、全体として統一性がとれてきたためではないかと思われる。

科目名：生命科学実習Ⅵ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：83 配付数：73 回収数：72 回収率：98.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.2	4.2	4.3	4.1	4.3	3.7	4.0	4.4	3.7	3.5	3.3	3.4	3.3	3.9	3.8	3.7

*評価に対するコメント

生命科学実習Ⅵコーディネーター 谷口隆信

この実習は酵素を自分たちで精製し、それを材料に酵素の性質を究めるべくアッセイをやっていく段取りになっているのですが、班の中でうまくチームワークを組んで全体の流れを見失わないように上手に分担していく必要があります。チームワークは医療の現場で大変に重要なポイントであり、予習・打合せの重要性に気づき臨床にも活かして頂きたいと存じます。よい実習だったというコメントが12件と最も多く安心しましたが、ネガティブな評価も、開始前の説明が冗長（6）、チューター間で言うことが違う（6）、時間が足りない（4）、分光計やピペットの不足（4）など頂いています。この実習は今のやり方で7回目になり、これまで履修者からの指摘を取り入れながら来ていますが、皆さんの予習状況が素晴らしい（評価表問1：4.5）ことを勘案して、説明の簡略化について検討したいと存じます。チューター間の食違いについてはスタッフ間で連携を密にするように心がけていますし、更に努めたいと思います。ただ、皆さんのチューターに対する状況説明が充分だったか、もう一度振返って頂きたいと存じます。医療チームは医者だけで組めるものではありません、知識や技術的背景が異なる職種を組み合わせの中で、正しく患者さんの状況を伝え最善の処置につなげて行く、「ちゃんと言ったのに伝わらなかった」では済まない世界が皆さんを待っています。時間が足りない、納得のいくまでやりたいという気持ちはよく分かります、が、納得のいくまで手術をしていると患者さんが危なくなります。実習は余裕を持って進むように組んでいます、詳細な実習書、丁寧（冗長？）な説明、細やかなフォロー、良い外科医は手技に長けているばかりではなく指示出しや人使いもうまく、手術チームを上手にリードして短時間に少ない出血・侵襲で患者さんを救うものです。機械類については確かに老朽化していますが、点検整備はしていますし、分光光度計などは1台50万円はすることを考えると、現状は十分に許容範囲であると考えています。これは臨床でも同じことで、すべての病院にPETやヘリカルCTは備わっていないと思います。アナログでもデジタルでも、その場の機械を上手に使い、できる範囲で患者さんのために最善を尽くす、皆さんが大学を離れた時にこの実習のことを思い起こして頂ければ、スタッフ一同嬉しく存じます。

科目名：生命科学実習Ⅶ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：83 配付数：79 回収数：76 回収率：96.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.3	3.8	3.7	4.0	4.0	4.0	3.8	3.7	3.9	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.8	3.9	3.7

*評価に対するコメント

生命科学実習Ⅶコーディネーター 立野正敏

実習計画についての評価ポイントは、問5～8について、評価ポイントは3.8～4.0であった。また実習内容については、問9～14では3.4～3.9ポイントとなった。多くの学生には、内容評価が得られていると考える。実習では、生命科学Ⅹの内容とリンクしており、各自で整理して実習に臨むと免疫の理解度が高まるように構成されているが、独立した科目のように考えている学生が少なくない。実習内容を履修要項などで、事前にチェックし、積極的に行う姿勢と理解度を深める努力がさらに必要と考える。実習内容については、興味あるものが多かったようだが、さらに免疫学の知識と応用を加味した実習書の工夫、レポート課題を検討していきたい。

科目名：生命科学実習Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：83 配付数：77 回収数：72 回収率：93.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.4	4.7	4.2	3.5	3.4	3.6	3.9	3.0	3.4	3.9	3.4	3.6	3.5	3.7	3.6	3.7	3.7	3.9

***評価に対するコメント**

生命科学実習Ⅷコーディネーター **中村正雄**

評価項目のうち低下した2、3を除けば、全体として昨年と良く似ています。提案と感想に述べられた皆さんの意見は、

- ・実技の教員による評価法、たとえば教員による口頭試問内容の均一性を求める。
- ・実習が複数講座からなるので、その連携を円滑にし、受講生の戸惑いを無くして欲しい。といった、改善に向けた真摯なものが殆どでした。特に問8の低い評価（3.0）がこれらを反映しているでしょう。評価全体の印象は、学生諸君は今後学ぶべき医学の中で実習Ⅷの重要性を十分理解して実習に臨んでいると思われます。

実習Ⅷを構成するpart 1とpart 2は次年度から独立して実施されることとなります。実習がコンパクトになり目的もより明確になり、問11の技術習得が十分とはいえないとの評価（3.4）も改善できると考えています。

科目名：基礎医学実習Ⅱ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：101 回収数：80 回収率：79.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.5	4.2	4.1	4.4	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	3.8	3.9	3.2	3.9	3.5	4.0	3.7	4.0

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅱコーディネーター **柏柳 誠**

基礎医学実習Ⅱでは、テーマごとにレポートの提出を求めている。このため、レポートの量に関する問13のポイントが3.2と低い値となっていると思われる。最近は論理的に考察し、文章を書く機会が以前と比べて極めて減少している。したがって、学生評価が低くなることを承知の上で、レポートの提出を求めることが担当教官のコンセンサスとなっている。また、最終日に行う試験に対するコメントもあるが、実習で学習した知識をまとめる意味があると考えている。今回、学生評価を詳細に見ていると、疑問に思える箇所があった。例えば、今回の実習の欠席者はほとんど無かったにもかかわらず、実習に毎回出席したかにかどうかについての質問（問2）は4.5、実習の説明時に提示したスケジュールがほとんど変わらなかったにもかかわらず、それに関する問5は4.4であった。これらの値は、4.9～5.0であると思う。

科目名：基礎医学実習Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：94 回収数：36 回収率：38.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.6	4.8	4.6	4.7	4.6	4.4	4.4	4.2	4.3	4.6	4.2	4.2	4.6	4.5	4.5

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅲコーディネーター **牛首文隆**

基礎医学実習Ⅲの目的は、動物に投与した薬物の作用を観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることである。このため、実習では、丸ごとの動物を用いた実験をおこなった。また、学生諸君に被験者となってもらい二重盲検定を用いた薬効判定を体験してもらった。その結果、今回の実習に対する評点は、すべての項目で高いものであった。したがって、多くの学生は本実習に対して概ね満足していることが伺えた。また、実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあった。このような場面で、ただ失敗したというのではなく、何が良くなかったかを考えることを是非心がけて頂きたいと思う。薬理学に限らず、多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたく思っている。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：73 回収数：55 回収率：75.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.4	4.3	4.1	4.3	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅳコーディネーター 若宮伸隆

例年と同じく、今年度の本実習に対する受講生諸君の評価は問1を除いて全て平均4点以上であり、高い評価をいただけたと思います。ただ、例年高い評価点であった問1「事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか」に対して、3点以下が28名で、4点以上の27名を上回っていました。今年度の実習オリエンテーションでも、実習書の事前通読をアナウンスしましたが、次年度はもう少しこの点を改善する必要があると考えています。

自由記載の欄に「プリントの様式をそろえてほしい」並びに「内・外入りみだれ同じ事を何度もやっていた」との記載がありましたが、文意から考えると、本実習ではなく他の授業と混同したコメントのように思われます。学生支援課担当係と検討した結果、授業評価実施の日が本実習終了時ではなく、しばらく期日をおいた後の試験週であったことが混同の原因と推察されました。これを教訓に、次年度からは、実習終了時点で速やかに授業評価を実施出来るように段取りしたいと思います。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：94 回収数：35 回収率：37.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.1	3.8	3.8	4.0	3.7	3.9	3.8	3.9	3.9	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅴコーディネーター 立野正敏

実習計画についての評価ポイントは、問5～8について、評価ポイントは3.7～4.0であった。また実習内容については、問9～14では3.5～3.9ポイントとなった。実習企画に対する評価が得られていると考える。実習では、基礎医学Ⅰで行われた病理学講義の内容とリンクし、発展しており、講義内容を見直しながら実習に臨むと病理学の理解度が高まり、さらに臨床講義と繋がるよう構成されているが、2年生で履修した内容と知識が不十分なため、うまく利用できていない学生が少なくない。実習内容は、初回の実習時に説明されているため、実習前に組織臓器と疾患内容を組織学アトラス、教科書をチェックして臨むと効果的であると考える。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：58 回収数：58 回収率：100%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.9	4.7	4.4	4.2	4.1	4.1	3.9	4.2	4.5	3.8	4.0	3.8	4.1	3.9	4.4	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱコーディネーター 升田由美子

今年度は、看護技術「フィジカルアセスメント」の演習内容を見直し、より看護実践能力の育成に役立つ授業となるように構成しました。事前学習や課題レポートなどの量は若干増量したためか、問13提出物の量に関する評価は3.8と低めでした。しかし、授業の出席率、課題の提出率ともにはほぼ100%であり、学生の皆さんはよく努力したと思います。演習内容と比較して、時間が不足していたこと、演習ガイダンスの一部が時間外になってしまったことは次年度に向けて改善したいと思います。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がおれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：59 回収率：100%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	3.9	3.9	4.0	4.3	4.2	3.8	3.9	3.9	4.1	4.2	4.2

*評価に対するコメント

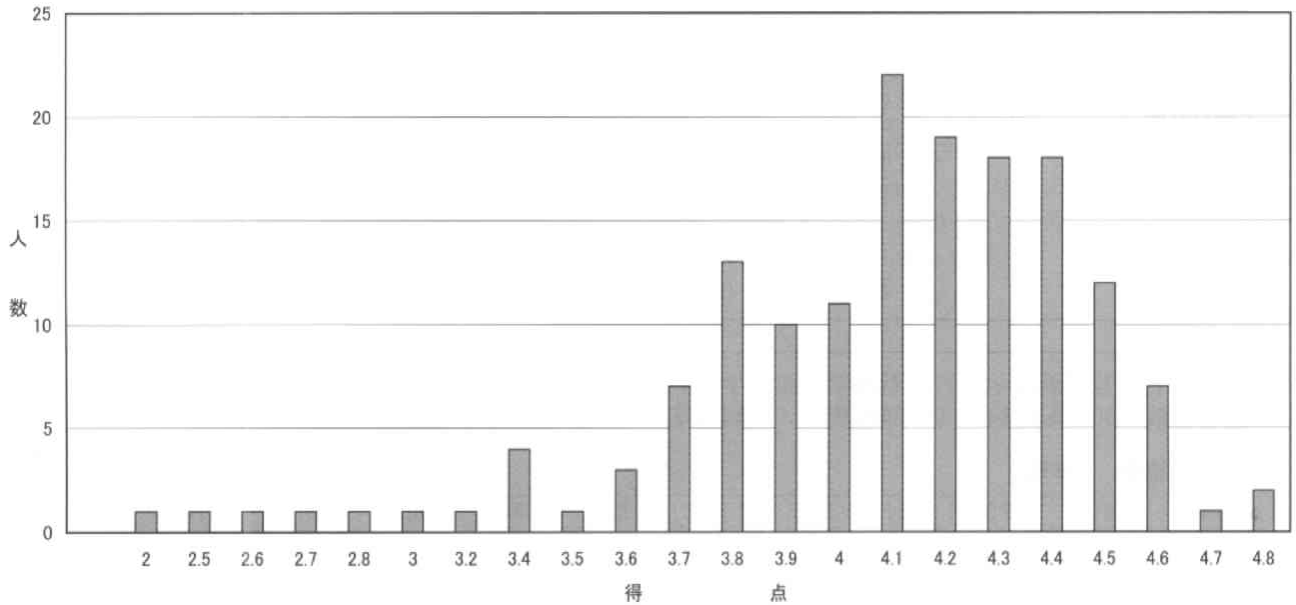
基礎看護学実習コーディネーター 一條明美

本年度よりカリキュラムが改正され実習時期が1学年後期から1学年前期に変更になりました。その点に関しては時期が早いとの意見が多数あった反面、この時期でよいという意見もありました。時期が早いことにより、知識が不十分であったという意見が複数ありました。確かに知識を持っているほうが実習の学びを広げたり、深めたりすることができます。この実習のねらいは看護に対する興味と学習のモチベーションを高めることです。実習時期が早いと答えたかたは「まだ十分な知識がない」「もっと知識があったなら」と考えたと思います。であればこの実習のねらいは達成されたといえるでしょう。次の実習に向けて主体的に学習し知識を身につけてください。問11看護職者を目指す意欲が高まった、問12実習は満足できるものであったの評価が4.2と高い評価でしたのでおおむね良い実習ができたと考えています。実習指導者と教員の連携を十分にとり、さらによりよい実習になるよう努力していきたいと考えています。

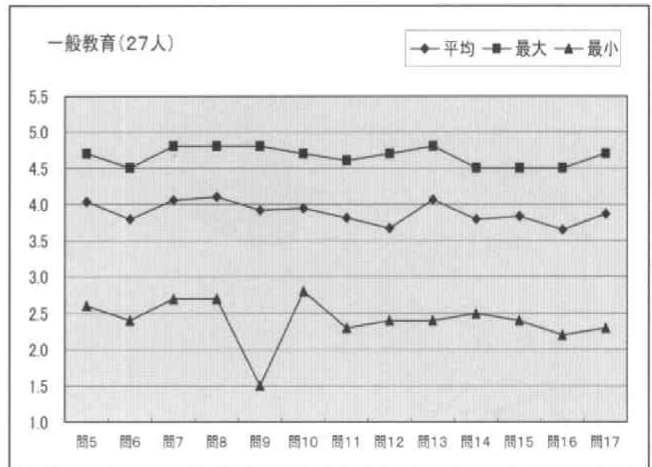
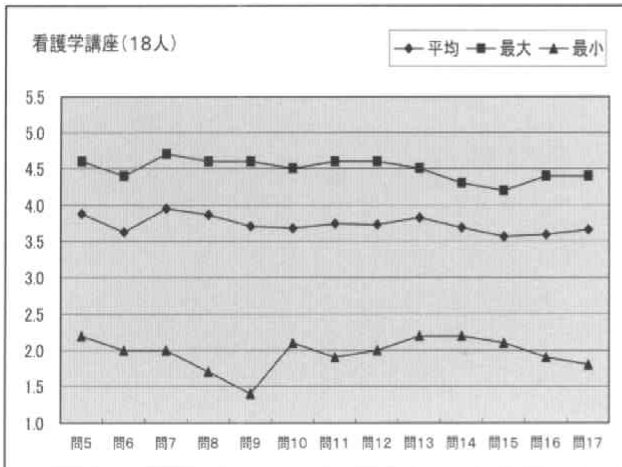
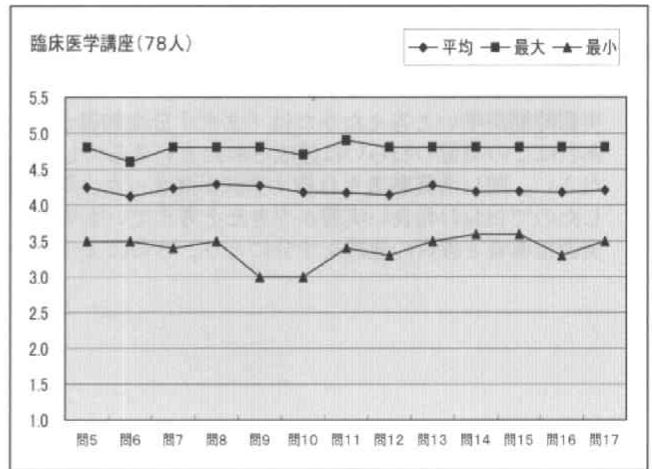
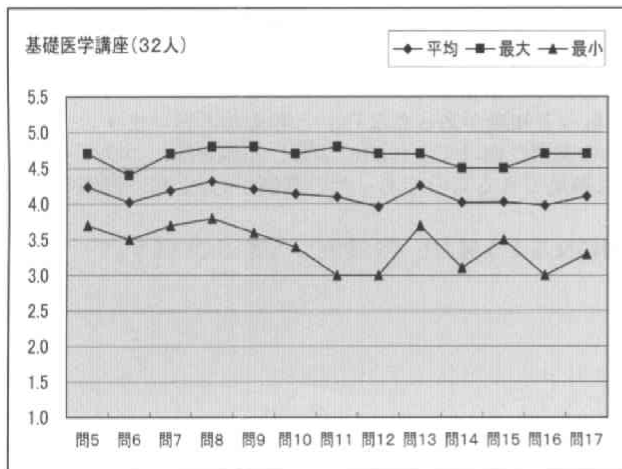
平成20年度「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																					
	2.0	2.5	2.6	2.7	2.8	3.0	3.2	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8
	1	1	1	1	1	1	1	4	1	3	7	13	10	11	22	19	18	18	12	7	1	2

(合計155名 平均4.1)



問5～17までの各平均点と最高・最低点



上位20%内の教員は次のとおりです。（*五十音順）

所 属 名	教 員 名	科 目 名
整形外科科学講座	熱 田 裕 司	臓器別系別講義Ⅷ
整形外科科学講座	伊 藤 浩 浩	臓器別系別講義Ⅷ
麻酔・蘇生学講座	岩 崎 寛	臓器別系別講義Ⅷ
非常勤講師	エリック・ハジメ・ジェーゴ	医学英語Ⅱ
総合診療部	奥 村 利 勝	EBM・CPCコース
産婦人科学講座	片 山 英 人	臓器別系別講義Ⅶ
薬理学講座	川 辺 淳 一	基礎医学Ⅱ
手 術 部	國 澤 卓 之	臓器別系別講義Ⅷ
非常勤講師	黒 川 伸 一	法 学
救急医学講座	郷 一 知	救急・プライマリケアコース
集中治療部	小 北 直 宏	臨床医学概論Ⅳ
法医学講座	清 水 恵 子	社会医学
健康科学講座	杉 岡 良 彦	社会医学基礎Ⅱ
救急医学講座	鈴 木 昭 広	臨床医学概論Ⅳ
生理学講座（自律機能分野）	高 井 章	基礎医学Ⅰ
生理学講座（神経機能分野）	高草木 薫	基礎医学Ⅰ
放 射 線 部	高 橋 康 二	臨床放射線学
麻酔・蘇生学講座	高 畑 治	臓器別系別講義Ⅷ
周産母子センター	田 熊 直 之	臓器別系別講義Ⅶ
英 語	内 藤 永	医学英語ⅠA
内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）	長谷部 直 幸	基礎医学Ⅰ
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	林 達 哉	臓器別系別講義Ⅵ
生 命 科 学	林 要喜知	人間科学Ⅰ
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	坂 東 伸 幸	臓器別系別講義Ⅵ
看護学講座	藤 井 智 子	在宅看護学
救急医学講座	藤 田 智	臨床医学概論Ⅳ
内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）	藤 谷 幹 浩	臓器別系別講義Ⅳ
産婦人科学講座	堀 川 道 晴	臓器別系別講義Ⅶ
麻酔・蘇生学講座	間 宮 敬 子	臓器別系別講義Ⅷ
英 語	三 好 暢 博	医学英語ⅡA
病理学講座（放射線医学講座）	柳 沼 裕 二	基礎医学Ⅰ
放射線医学講座	山 田 有 則	症候別課題別講義

講義に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5 各回の講義はよく準備がなされていましたか。 問6 履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7 教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。 問8 学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9 明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。 問10 教材（プリント・スライド・板書など）は適切でしたか。 問11 講義において重要ポイントを強調してくれましたか。 問12 学生の反応を確かめながら講義していましたか。 問13 豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。 問14 授業の難易度は適切でしたか。 問15 各回の講義内容は量的に適当でしたか。 問16 今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
 ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
 ① 全くそう思わない（良くない）

1 麻醉・蘇生学講座 間 宮 敬 子
 科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修科目）
 日 時：平成20年5月26日（月）2講目
 履修者数：95 配付数：85 回収数：13 回収率：15.3%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8

*評価に対するコメント

一浪して医学部に入った。1年目、はじめての講義。わくわくした。でも……全く面白くなかった。（私は旭川大卒業生ではありません。念のため。）6年間で印象に残る講義は1つだけ。アメリカから来た先生の内臓痛の講義だった。20数年前の医学教育はそんなものだった。

やがて私が講義をする側になった。自分が味わったような失望を学生に与えてはいけない。いかに学生のモチベーションにつながる講義ができるか、劣等生だった私ならではの課題だと思った。

学生の興味をそそる講義をするには、それなりの準備と努力が必要である。その中でいつも心掛けていることがある。「出席してよかった」「勉強しよう」と思ってもらえる講義をすること、ただそれだけ。

講義の評価・採点方法にも改善の余地はあるが、今後も私なりに努力を続けたいと思う。

2 麻醉・蘇生科学講座 高 畑 治
 科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）
 日 時：平成20年5月22日（木）3講目
 履修者数：95 配付数：89 回収数：20 回収率：22.5%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.8	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.9	4.6	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8

*評価に対するコメント

この度、私の講義に対して学生の皆さんから高い評価を頂きましたこと、ありがとうございます。私自身、例年とほぼ変わらぬ講義内容でしたので、なぜこのような結果になったのか、いささか不思議ではあります。また、今年度の学生評価の上位3名がすべて麻醉科から選出されたと伺い、とても驚きを感じます。岩崎教授がご就任されてから、特に学生教育に力を注いできた努力の結果が、ようやく実を結ぶことになったと考えます。残念ながら私の講義に対する学生評価のアンケート回収率は22.5%と著しく低く、このことが学生の皆さんのこの評価に対する無関心の現れでないことを切に願います。もしかしたら、講義に対する学生評価の方法を今一度、検討する必要があるのかもしれないかもしれません。担当諸先生方のご奮闘を、心からご期待申し上げます。

3 麻醉・蘇生科学講座 岩 崎 寛
 科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）
 日 時：平成20年5月22日（木）2講目
 履修者数：95 配付数：89 回収数：30 回収率：33.7%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.4	4.8	4.6	4.7	4.4	4.6	4.5	4.8	4.2	4.2	4.6	4.7

*評価に対するコメント

平成20年度前期における教員評価で学生より高い評価を受けたことを大変うれしく存じております。私個人的にはこれまでも上位3位までに選ばれたこともあり毎回の学生からの辛口のコメントを参考に講義を修正しておりますことが生かしていると再度実感できました。何よりも嬉しいことは上位3名とも麻醉蘇生学講座から選出されていることで、各教員に講義の姿勢や準備について日頃から研鑽して望むように指導していることが現実となり、そして実際に高い評価となったことであります。また、講義用のテキストも事前に小冊子の形で配布して、スライドだけに頼らない講義形態を行っていることも高い評価につながっていると思っています。今後も高い学生評価を維持するようしていきたいと思っています。

1

救急医学講座 鈴木 昭 広

科目名：臨床医学概論Ⅳ（医学科第4学年後期／必修科目）

日 時：平成20年11月26日（水）1講目

履修者数：93 配付数：58 回収数：23 回収率：39.7%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8

*評価に対するコメント

祝、振り返り！プレゼン達者の多い麻酔科で鍛えられた成果でしょう。2度目入賞の喜びを恩師のひとり、久津見先生（元・寄生虫学講座教授）に捧げます。久津見先生は「教科書に書いてあることは読めばいい。講義とは教科書に書いてないことを伝えるためにある」と、鞭毛虫の進行方向など試験とは無関係な教科書のあら探しばかりを話しておられ、聴講していた当時は興味を惹かれつつも不満を感じていました。しかし自分が講義をする側にまわり、ようやくその言葉の真意がわかるようになってきました。進化し続ける医学と氾濫する情報社会の中、学生教育で年々縮小されゆく講義の役割は、最後に久津見哲学にたどり着くように思えます。今後も、参加された学生が「出て、聞いて、ちょっぴり得した！」と思われる講義を目指したいと思います。

2

英語 内藤 永

科目名：医学英語ⅠA（医学科第1学年通年／必修）

日 時：平成20年12月11日（木）・12日（金）

履修者数：90 配付数：73 回収数：67 回収率：91.8%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.4	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8	4.4	4.4	4.5	4.7

*評価に対するコメント

この授業は「NYTimesの健康欄の記事を辞書なしで読み、その内容を日本語で要約する作業を30以内に終わらせる」ことが到達目標です。大学に至るまでの英語とのギャップを埋めるために、この授業では一定量の課題をこなさなければなりません。問14と問15の評価は例年低いのですが、将来使う英語を考えると、到達目標を下げるわけにはいきません。平成20年度はかろうじて合格という学生層が非常に厚くなりました。危機的な状況であると感じています。授業方法をさらに改善したいと思います。

3

生理学講座（神経機能分野） 高草木 薫

科目名：基礎医学Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）

日 時：平成20年12月9日（火）3講目

履修者数：100 配付数：60 回収数：37 回収率：61.7%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.4	4.7	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.7	4.4	4.3	4.7	4.7

*評価に対するコメント

この度は、私のつたない講義に非常に高い評価を戴き誠に有難いことと感じております。しかし、必修科目であるにも関わらず、出席率が低いので、私の講義に学生さんがそれ程期待していないことも承知しております。私が担当しているのは、学生さんが非常に苦手になっている脳神経生理学です。私が大学での講義を始めてから既に二十数年が過ぎましたが、毎回講義を終えると、もっと分かり易く話をすれば良かった……、と後悔をすることばかりです。ですから、正直に言うと講義の中身を理解して戴いているとは思っていません。「結構面白いかも……、ちょっと興味あるな……」と思って戴けているならば、それで十分とも思っています。ただ、「良き教師になって戴きたいという願いを込めて講義している」ことだけは確かです。

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：96 配付数：96回収数：93 回収率：96.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.8	2.8	4.1	3.9	3.8	4.2	3.8	3.7	4.0	4.0	3.6	4.0

*評価に対するコメント

コーディネーター **林 要喜知**

学生の総合評価の平均4.0であり、現状でもそれなりに教育目標を達成しつつあるが、さらに授業内容全般にわたる改善が可能であると考えられる。低めの評価がなされた項目（問10や13）や具体的なコメントなどをまとめてみると、「授業内容全般で理解しにくい箇所があった」ことや「期末試験が範囲が多く大変であった」という声が多かった反面、各教員の創意工夫（講義の進め方や質問対応など）などを評価するコメントもあった。今後は、項目ごとに学習の習熟度を確認する形成的評価を行なうとともに、質問対応などによるフォローアップを充実させたい。また、期末試験だけでなく、中間試験も実施していきたい。難易度が高いと感じる教科項目については、さらに資料作成や教育方法にもさらに工夫を重ねたいと考えている。

科目名：生命科学Ⅱ（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：96 配付数：96 回収数：86 回収率：89.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.1	3.5	2.8	3.7	3.8	3.5	3.7	3.0	2.9	3.4	3.0	3.2	3.2

*評価に対するコメント

コーディネーター **本間 龍也**

この科目は物理学を主体に、関連した医療技術の基本を学ぶため、一般教育、基礎医学、臨床医学の教員が講義する統合科目の一つです。4月に開講されているリメディアル科目の自然科学入門（物理系）と連携しながら、物理未履修者を含めた医学科一年生に指導しています。学生評価の平均は別表に示す通りですが、良い評価から悪い評価までばらつきが大きいのも事実です。昨年度に比べ、履修目的の達成度（問11）、総合評価（問14）にわずか（0.2～0.3）ではありますが改善が見られています。しかし、全体として厳しい評価を受けていることには変わりありません。物理未履修者と物理履修済みの学生が共に、一定の満足感を得られるよう今後も講義改善に努めるつもりです。担当していただいた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：生命科学Ⅲ（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：92 配付数：90 回収数：87 回収率：96.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.3	3.8	2.6	3.8	4.2	4.0	4.2	3.6	3.4	3.7	3.4	3.7	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **山内 一也**

生命科学Ⅲの授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。コンピューターリテラシーはクラスをA組、B組の2クラスに分け、担当教官には負担増となるが、週2回の授業を展開している。「あなた自身について」という評価の項では、2.3、4.3、3.8、2.6という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、3.8、4.2、4.0、4.2という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.6、3.4、3.7、3.4、3.7とほぼ前回と同じ評価であった。「総合評価」では3.8という評価なので一応の評価を受けたと考えられる

科目名：生命科学Ⅳ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：91 配付数：89 回収数：81 回収率：91.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	4.0	2.8	4.1	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.4	4.1	4.5

***評価に対するコメント**

コーディネーター **中村 正雄**

評価点は昨年とほぼ同じである。講義は生命科学の基礎である、1. 生体熱力学、2. 物質化学（有機化学）、3. タンパク質の構造と機能、で構成されており、教員3人でそれぞれの分野を担当している。今回も、化学の基礎をもっと教えてほしいあるいは講義が難しいといった学生の意見が以前と比べ増えている。これを反映してか、定期試験の成績は全般的に低下している。一方で、生体分子の立体構造変化が本来の機能喪失を引き起こし、疾病へとつながった話題などは興味をわいて楽しいとコメントしている。次年度は、科目の名称が基礎生化学となり、開講時期もより早くなることから、他の生命科学の学習との整合性が期待でき効率よい学習が期待できる。当面、私達の課題は、著しい生命科学の進展に負けない基礎学力を学生諸君に身につけてもらうことにある。

科目名：生命科学Ⅴ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：91 配付数：89 回収数：81 回収率：91.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	4.0	2.8	4.1	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.4	4.1	4.5

***評価に対するコメント**

コーディネーター **高橋 雅治**

生命科学Ⅴは、医療に必要な基礎心理学、臨床心理学、発達心理学を学ぶための講義である。「科目構成」の4項目は、4.1から4.4であり、0.1増加した。これは、本年度に、講義内容を一部改善した成果であると考えられる。また、「科目内容」の4項目についても、4.2から4.4という高い評価が得られた。これは、講義資料のマルチメディア化を毎年進めてきた成果であると思う。さらに、総合評価は4.5であり、前年度より0.1増加した。これは、医学に必要な基礎心理学、臨床心理学、発達心理学の基礎知識を、相互に関連図ながら、分かり易く、コンパクトにまとめる、という講義企画が評価されたのであろう。今後は学生の予習・復習について指導の改善が必要であると思われる。

科目名：生命科学Ⅵ（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：92 配付数：81 回収数：87 回収率：95.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	4.0	3.2	4.0	3.7	4.0	4.2	4.0	4.0	4.0	4.2	3.9	4.1

***評価に対するコメント**

コーディネーター **林 要喜知**

生命科学Ⅵの総合評価は4.1であったが、前年度と比べると0.1点増加した。誤差範囲ほどの微増かもしれないが、1)内容を整理し講義の展開をシンプルにしたことや2)中間試験等を2回実施したことが、評価されると受け止めている。学生の具体的なコメントからは、昨年の指摘された1)担当教員数と内容重複の問題や2)期末試験の過重負担などについては、ある程度解消されていると判断される。ただ、3)教科内容が盛り沢山とか4)内容が難しかったなどの点は、今年も指摘があった。一方、複数の学生が高く評価している点は、質問カードを兼ねた大きめの出席カードを配布し、プリントやスライドでそれら質問に回答したことである。平成21年度の遺伝学の講義では、3)や4)に対応するよう幾つか改めているところだが、今後もさらなる授業改善を押し進めたい。

科目名：生命科学Ⅶ（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：94 配付数：75 回収数：36 回収率：48.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	4.1	3.3	4.2	3.9	3.8	4.1	3.6	3.6	3.8	3.9	3.2	3.7

***評価に対するコメント**

コーディネーター **渡部 剛**

本科目の企画・展開方法に関しては、ほぼ確立されこの数年間変更点はないが、ゆとり教育の影響が本年度は合格水準に達しない学生が多数出現し、合否判定の厳しさに対する怨嗟のこもったコメントが多数寄せられた。しかし、共用試験受験時、あるいは医師国家試験受験時に要求される組織学・解剖学の知識レベルは以前と変わらず、残念ながら生来の才能に恵まれていない学生は人並み以上に努力してはじめて、そのような試験で要求される水準に到達できる。今後、医師として必要な知識・技能を磨いていく過程で何か組織学の領域に関して質問・疑問が生じた場合には、いつでも気軽に担当教員まで尋ねに来て欲しい。

科目名：社会医学基礎Ⅱ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：91 配付数：91 回収数：86 回収率：94.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	3.8	2.8	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.3	4.1	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター **中村 正雄**

医学部に入学して、まだ半年の段階では医学とはどのような学問か良くわからないというのが正直な感想だろう。医学＝生物学（分子生物学）の応用という考えの学生も少なくない。社会医学Ⅱは、特にフレッシュな医学学生を対象に、医学の学問としての特徴、科学とは何かという問題、あわせて疑似科学の問題、生命倫理など、これから医学を勉強する学生が、医学の全体像を正しくとらえ、医学の面白さを確認することによって、今後の医学の勉強へのモチベーションをさらに高めることができるような内容にしようと試みた。もちろん、社会とのつながりを含めた、生物医学以外の幅広い見方（医療モデルなど）も提供したことはいうまでも無い。今後引き続きこうした内容の講義は特にフレッシュな学年で不可欠であると考えている。総合評価では昨年度の3.6点から今年度は4.3点とアップしたが、医学教育としてこうした講義の必要性が再度検討されて良からう（文責 杉岡良彦）。

科目名：生命科学X（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：87 配付数：86 回収数：73 回収率：84.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.4	3.5	2.8	3.8	3.3	3.5	3.7	3.5	3.3	3.6	3.7	3.4	3.6

***評価に対するコメント**

コーディネーター **立野正敏**

昨年度同様、科目構成、科目内容について、平均3.5以上の評価はあるが、4.0には達していない。免疫学は、高校生までの履修内容から比べると、生命科学の分野でも専門用語の量の多さ、複雑さがあり、理解し、習得するために多くの自習時間を必要とする。講義内容としては、自然免疫から獲得免疫、臨床免疫学までを広くカバーしているため、学生の自学自習の取り組み方で理解度に差が生じると考えられる。学生の自学自習の自己評価ポイントも問1（3.3>2.9）、問4（3.1>2.8）と昨年よりさらに低く、さらに多くの自習時間が必要と思われる。講義内容では、学生にとって難解な部分、重複した内容についての時間配分、構成について再度検討するとともに、学生の興味や学習意欲を誘導するような講義内容にすることも考慮し、積極的に自習時間を増やすようにしていきたい。

科目名：生命科学X I（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：87 配付数：87 回収数：62 回収率：71.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	3.7	3.2	2.8	3.6	3.4	3.5	3.7	3.3	3.0	3.1	3.2	3.3	3.0

***評価に対するコメント**

コーディネーター **田中邦雄**

本科目は第2学年前期に開講され、各種画像診断法に関連する医用工学、放射線物理学など、これまでなじみの少ない広い内容を含んでいる。講義の内容、進め方は例年通りである。学生自身についての評価は、例年に比べて非常に低い。このことは、今年度は講義時間が水、金曜日の1講目に固定されたことにも因ると思うが、講義開始時の出席状況は全体の3割程度に過ぎないという状況を反映しているのかもしれない。また、科目構成に関する評点も例年4前後が本年度は3～3.5程度、さらに科目内容についても3～3.3と低い評価である。当然ながら前期試験の平均点が61点、再試験該当者が37名に及んだ。このことは、講義を聴こうとする努力をせず、講義内容や進め方への不満のみをぶつけ、アンケート回収率71.3%と例年より20%も低いという無関心さを反映しているものと考えられる。しかし、評価の向上を目指して講義の改善には今後も努力を続けたい。

科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：87 配付数：87 回収数：80 回収率：92.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.1	3.1	2.8	3.6	3.8	3.4	3.6	3.6	3.5	3.4	3.3	3.6	3.4

***評価に対するコメント**

コーディネーター **田中剛**

医学教育における「医師と患者のコミュニケーション」の意義が問われている。OSCE導入によって、礼儀作法や診察時のスキルだけでなく、情報収集能力や問題解決能力などペーパー試験のみによっては評価できない項目も重視されるようになった。本科目の主眼は医療面接の場面を構成する言語的・非言語的コミュニケーションの基本概念、それに支えられた様々な適用例を通して、今後目標となる実践的スキルへの基礎固めをすることである。しかし、履修者は本番を想定したSPとの模擬場面へと即座に進もうとする。「座学」ではわからない、というわけだ。今回の評価にも現れたが、言語による／言語によらないコミュニケーションの難しさを解きほぐす教育は簡単なものではない。面接の具体例を用いたとき履修者の1人が、「それは医師から学ぶことだ」と語った。「医師－患者のコミュニケーション」の機能的側面だけが強調されないように、次年度以降も実践的能力の言語行為理論的・言語心理学的バックボーンをしっかりと認識してもらえよう努力する。

科目名：社会医学基礎Ⅳ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：97 配付数：97 回収数：88 回収率：90.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.2	3.6	2.8	4.0	4.2	4.0	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

コーディネーター **中村正雄**

社会医学基礎Ⅳは前半と後半に分かれ、前半は、松岡先生のあとを健康科学の杉岡が担当し、後半の主に生命倫理に関する部分は前年に引き続き長谷川先生（非常勤）が担当した。社会医学基礎Ⅳのように、社会学、哲学、倫理学等に関わる講義では医学生の関心をいかに惹きつけて講義するのが難しく、また将来直面する生物医学以外の問題を考える枠組みを理解し、粘り強く考える力をつけてもらうかが講義の重要な課題でもある。幸いにして、総合評価において昨年よりも高い評価（3.2→4.1）が得られた。特にこの講義の前半では、医学の学問としての特徴や、フランクルの人間理解を紹介しつつこれらの課題に取り組んだ。医学教育の中で、こうした内容をもつ講義は非常に重要であると思っている。今後、社会医学Ⅳという講義の名前は変更になっても、引き続き医学生に将来役立つ医学概論や医療倫理の講義が提供されることを望んでいる（文責 杉岡良彦）。

科目名：基礎医学Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：99 配付数：97 回収数：88 回収率：90.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	3.8	4.0	3.4	4.3	4.2	3.9	4.2	4.2	4.1	4.2	4.4	4.1	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター **高井章**

- 講義の進め方に関する設問である問5－問14については、すべての項目について昨年度より高ポイントとなり、平均値でも4.2と昨年度3.9を上回った。全体として、本講義科目が昨年度以上に、学生によく評価されたものと考えられる。
- ただ1項目、問7「各履修主題に割当てられた時間のバランスは適切でしたか」についてのみポイントが3.9（昨年度3.8）と4を下回った。「自由記載欄」に書かれた意見にも分野ごとのコマ数配分に関する不満の記載があった。来年度の本科目編成上の参考にした。
- 「自由記載欄」には他に、学習内容が難解で分量が多いという感想、他の科目との内容の振分け方についての不満などがあった。いかにして豊富な内容を要領よく教えるか、という点になお一層の工夫が求められているようである。

科目名：基礎医学Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：98 配付数：50 回収数：30 回収率：60.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	3.7	2.7	2.7	3.9	4.1	3.5	4.0	3.6	3.4	3.6	3.8	3.7	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **若宮伸隆**

薬理学、微生物学、寄生虫学で構成されている基礎医学Ⅱの今回の評価点は、過去5回の評価点とはほぼ同等でした。前回の評価においてコメントとして述べました「授業評価の期末試験中の実施は不相当であること」に関しては、関係各位にお願いして「講義最終日」に実施され、課題の1つは解決されました。また、毎回の評価で見られる「薬理学、微生物学、寄生虫学の3領域の講義を1科目にまとめることの不自然さ」に関しても、国内基準としてのコアカリキュラムに準拠した形態であるとは云え無理が有ることは事実であり、近い将来、改善する方向でカリキュラム編成作業が進行中であることを付記しておきます。形態はどのようになろうとも、3領域の学習内容は、ヒトの疾患に関わる広範な知識に関するものであり、医学教育後半の臨床講義を受講する上で、その土台となるものと言えます。学生諸君の能動的な受講を期待していません。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：89 回収数：82 回収率：92.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.1	3.7	3.0	3.9	4.0	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	3.6	4.0	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **廣川博之**

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療情報学で扱う重要な領域であるが、昨年度までの学生諸君の要望を踏まえ、今年は理論的、技術的な事項より、臨床に関連するような具体的な事例等に時間を割いた。今年は昨年と比べ、講義がわかりやすかった、おもしろかったというような意見が増えた。

また、昨年と同様に他の授業との重複に関する指摘や、講義の時期に関する意見があった。講義内容については、今後さらに検討したい。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：88 回収数：81 回収率：92.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.1	3.5	3.0	3.7	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **奥村利勝**

この5年間、各臨床講座の全体像の紹介（例 内科学とは）で講義を構築してきました。臨床医学全体像を見渡す意味では各論の前に行われる意義は大きいと考えております。授業評価に関しては、全体的な満足度が3.8と満足できるものではありませんが、回収数81人の中で、大変良いが29名、良いが20名で回収分の6割の学生がこの解答であり、半分以上の学生には時期／内容ともに問題なかったと考えています。しかし、この時期にこの内容の講義を開講するか否か、カリキュラム全体に関わる問題でもあり、抜本的な見直しが必要と考えられます。

科目名：臓器別・系別講義Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：92 配付数：91 回収数：77 回収率：84.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.0	3.8	3.3	3.9	4.0	3.8	4.0	3.7	3.7	3.9	3.8	3.6	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **高後裕**

臓器別・系別講義Ⅲは、膠原病、感染症、血液病学を対象とした講義である。学生の総合評価は3.8とほぼ満足してもらえたと考えている。各科・各分野でも重複項目を整理しており、科目構成に関しては比較的高く評価されているようである。例年、授業内容に対してコマ数が足りない、との学生からの自由意見が多いが、講義の時間を増やすことが必ずしも多くの知識に結びつくわけではない。また国家試験の傾向を鑑みて試験問題に完全回答を取り入れるなど実地に即した対策も進めている。より正確かつ幅広い知識を求められるようになってきており、従来型の一方的な知識の押し付けに頼らず、授業の予習・復習も行いその都度疑問点を明らかにし、さらに4学年のチュートリアルや、5学年以降のクリニカルクラークシップも通じて自ら積極的に学習することで、不十分な知識を補い、問題点を自ら解決していく姿勢・習慣を身につけてもらいたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：92 回収数：86 回収率：93.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.1	4.1	3.5	4.0	3.9	3.9	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

コーディネーター 葛西 眞一

本講義は、消化器病学の内科的・外科的診断と治療に関して、それぞれ専門の教員が約20名担当して約1ヶ月間で集中して行なうものである。本年度は講義の内容を見直し、可及的重複を避けて10コマ減らして65コマにスリム化した。総合評価は4.1点なので合格点であろうか。試験までの準備時間が十分でないとか問題が難しかったとの意見があり、例年より再試者が多かったが、例年と大きく変わった点はなく、平均点は昨年と1点しか変わらない。再試験はいい点が取れているので、授業を含め今少し気合いが入れば良いだろう。ただ下位数名の学生はかなり頑張らないと大変ではないかと想定され、今後の奮起を期待したい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅴ（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：94 配付数：92 回収数：60 回収率：65.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	3.8	3.2	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	3.4	3.6

＊評価に対するコメント

コーディネーター 飯塚 一

臓器別・系統講義Ⅴは、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科、皮膚科の4科からなる混合講義で、合計105コマからなる。一応、感覚器系として統合されたものではあるが、臓器別系統講義としての統一性に欠けていることは、学生諸君に指摘されるまでもなく、担当している4つの科の教官全員が感じているところである。

結果的に、学生は関連の乏しい膨大な分量の知識を詰め込まれることになり、統合講義の意義から考えると、相当、無理のあるコース設定になっている。学生からの評価も、その点を問題にしている意見が多かった。

個々の講義自体は、興味深く有意義であったという意見が多く見られ、コーディネーターとして、熱意を持って教育にあたってくれた各科の教官に感謝したい。

科目名：臨床医学概論Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：93 配付数：92 回収数：52 回収率：56.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.0	3.5	2.8	3.6	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.9	3.8

＊評価に対するコメント

コーディネーター 吉田 貴彦

新新カリで旧衛生、公衆衛生、法医領域の講義が再編され、第4学年で展開される「社会医学」と第3学年で倫理的な側面の多い内容を集めた「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」とし展開されて4年目となる。前期に展開される臨床医学概論Ⅰと同様に臨床講義と平行した開講となるので、それらの知識が無くとも理解しやすい内容のものを集めて編成した。社会医学の広い範囲をオムニバス方式で展開するので、科目全体として違和感をもつ方があったし、科目名と内容が乖離しているのは事実である。総合評価3.8、科目全体の履修目的（評価3.6）がわかりにくいとの意見に現れているものと思われる。Ⅰと同様に次のカリキュラムが検討される際に改善することとなる。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：90 回収数：62 回収率：68.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.2	4.1	3.4	3.9	3.9	3.7	3.9	3.5	3.6	3.7	3.7	3.3	3.5

＊評価に対するコメント

コーディネーター 藤枝 憲二

器別・系別講義Ⅶは、婦人科・産科、小児科、泌尿器科、小児外科、救急医学の各講座が担当し、成人女子から妊婦・胎児・新生児・小児・思春期にみられる内科的・外科的疾患をReproductive healthからDevelopmental biologyの視点で理解することを目的として設定されたコースである。

コース担当者からは、将来にわたり有益な情報を伝えたいとする熱意が感じられるに比し、学生の反応は試験にのみ言及したコメントのみである。学生には、授業そのものは学習すべき事項を提示するにとどまるものであること、また試験に合格することのみを目的とした授業ではないことを再認識してほしい、またより一層の自学自習を望みたい。

今後改善すべき点として、一つには、授業内容は広範囲にわたっていると認識されている。また学生にとっても極めて負担となっていることから、今後婦人科と産科・小児科とを分離したコース設定が検討されるべきであろう。二つめには、授業評価の有用性は、学生が評価者のレベルにあることが必須であり、また学生におもねることなく、お互いが切磋琢磨し内容のレベルアップを図ることにより成り立つものである。その点から現在の評価方法が機能しているとは言い難い。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：95 配付数：93 回収数：72 回収率：77.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.1	3.5	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

コーディネーター 松野 丈夫

学生評価では、科目構成、科目内容ともに4点前半の評価であり、構成や内容については適切であったと判断して。しかし、学生自身の評価で予習・復習に関する評価は3点台であり、この点については、予習しやすいよう履修要項に工夫を加える、復習を促すような講義の工夫等の検討が必要であると考えられる。

学生の個別の意見では、麻酔科蘇生科で作成・使用されているテキストがわかりやすいと高く評価されていた。その他に、救急部講義のコマ数増加の希望、3科のうち麻酔科蘇生科と救急部は関連しているが、整形外科は2科との関連が少なく、勉強しにくい等の意見が出されており、今後検討を要すると思われる。

総合評価としては4.2点であり、講義を行う側としても合格点を得られているのではないかと考えているが、上記を踏まえ、今後もさらなる講義の体制・内容についての検討・改善を進める必要があると思われる。

科目名：加齢・老化と高齢者の医学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：83 回収数：65 回収率：78.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.3	4.0	3.6	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.1	4.0	4.3	4.1

＊評価に対するコメント

コーディネーター 奥村 利勝

本講は名前の通り、臓器別ではなくいわば高齢者という年齢という尺度で区分けした臨床医学横断的な分野である。しかし、少子高齢化と言われる現在、どの臓器別専門診療に関わる医師でも、高齢者診療において共有すべき医学的知識がある。各臓器別講義の内容と一部重複する部分があるかもしれないが、重複して講義される内容は、それだけ重要であることを認識して欲しい。また、臓器別講義の内容を本講義の内容で横断的に理解することは一人の患者を見る全人的医療を実践する上でも役立つことを確信する。総合評価は4.1で未だ満足できるものではなく、より一層授業の展開を充実させることを目指す。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：93 回収数：68 回収率：73.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.4	4.1	3.6	4.3	4.4	4.4	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター **松原和夫**

臨床薬剤・薬理・治療学は、開講して4年目が経過した。本科目は、医師国家試験の出題範囲に対して、基礎薬理学分野で旧来のカリキュラムで不足していた部分を補い、基礎薬理学から臨床薬理学への橋渡しとなるような内容とすることを目的としてスタートした。この4年間を通して、学生からほぼ良好な評価を受けてきたと考える。本年度もほぼ同様な評価であった。また、学生からCBTの前の講義としても役に立ったという意見があったことは、4年後期にこのような授業を開講する意義が理解されたものと思われる。今後も、より良き授業となるように更に検討し改善していきたい。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：94 回収数：61 回収率：64.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.5	4.2	3.6	4.3	4.5	4.4	4.5	4.3	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター **伊藤喜久**

臨床検査医学はどの科にもまして内容が多岐にわたり、かつ浅からぬ基礎的知識を必要とするため、多くのその分野の専門の先生方に講義をお願いしています。今年度はどの項目にも比較的高い評価（4.1～4.5）を受けましたので講義の内容自体にはあまり問題がなさそうです。自由意見に初めて、「おもしろかった」というのが2、3ありました。これはほんとに嬉しい評価です。あらゆる努力や進歩に必須な心情だと思うからです。一方、各先生方はそれぞれ医学、医療に対する理念、信念をお持ちで、今時？の学生さんには多少、戸惑いを覚えるような場合もあったようです（レジュメを配布しないなど）。勿論、受講者の能力に対する信頼があるから、すべてを承知のうえでなされていることです。ちなみにこの先生の試験問題の正答率は80%でした。見事な成績です。その先生も教師冥利に尽きることでしょう。

科目名：選択必修コースI・N「ニューロサイエンスコース」

（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：32 配付数：32 回収数：26 回収率：81.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.3	4.0	3.3	4.1	3.8	4.0	4.1	3.9	3.8	3.9	4.1	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

コーディネーター **吉田成孝**

今年度のコースから試験を導入する事とした。これにより、緊張感を持たせ受講態度がよくなる事をねらったのであるが、必ずしも向上したといえないという教員の声もあった。ただ、これまでいた極端に態度が悪い学生（漫画を読む、携帯型ゲームで遊ぶ）はいなかったようだ。問13（試験やレポート）の評価は前年度の4.2から3.9へと若干下がったが、試験の内容と量共に一応支持されているものとする。寄せられたコメントは前向きに受講している学生からの建設的な意見が多く、意を強くした。今後も内容の充実を図りたい。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床薬理学コース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)
履修者数：30 配付数：29 回収数：26 回収率：89.7%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.4	4.2	3.7	4.1	4.2	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

コースコーディネーター **牛首文隆**

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方にその専門分野の講義を行って頂いた。試験結果は、3、4年生とも8割を超える正解率で、学生諸君の努力と講義の質の高さが窺われた。また、3年生には履修前の分野も含まれ、内容の理解が大変であったかもしれない。しかし、4年次でその分野を履修した際、必ずやその理解の一助になるであろう。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「生体構造機能蛋白・病態解析コース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：73 配付数：32 回収数：22 回収率：68.8%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	3.7	3.2	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9

***評価に対するコメント**

コーディネーター **伊藤喜久**

総合評価の平均が5点満点の3.9ということはB+という感じです。気になるのは理解しやすかったか(3.9)、今後の学習意欲を増すものだったか(3.9)の項目で、回答者22人中6、7人ほどが3以下の、つまり不合格の評価であったことです。1か月間に30コマの集中講義であり、特に4年生は臨床実習直前にあたる最後の座学となる。範囲が広く、かなり基本的知識を要求される内容のわりには時間数が少なく、やや詰め込みになりがちであることは否めない。ただ、講義というのは、病に苦しむ人々に連れ添うという共通の目標のもとに、講義をする人、受ける人が共に考え、相互に刺激し合うような時であってほしいものです。最後の評価をしたのは受講者73人中32人そのうち回答者22人です。学生さんにはもっと積極的に聴講し、授業時間中に質問などをして、わかりにくさ、疑問などを表明してもらえると参考になるような気がします。授業をする先生方の熱意の大切さについてかは気づくのでしょうか、悲しい人たちが少なからず存在することも思い知らされる結果でした。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床感染学コース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：31 配付数：28 回収数：12 回収率：42.9%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.2	4.2	3.6	4.3	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.1	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

コースコーディネーター **若宮伸隆**

本コースの平成20年度の受講学生は、3、4学年合わせて31名でした。授業評価は例年と同じく学生諸君に好評価を戴いたと思います。成績評価のポイントの1つになる出欠確認についても、確実に記録できるように改善されたと思います。このコースは、院内感染予防を始めとする感染症基礎知識の構築を到達目標の1つとして組み立てられており、この目標達成のために、学内外の多彩な方々に講師をお願いしています。今後、多くの学生諸君が本コースを受講してくれる事を期待します。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「EBM・CPCコース」
(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：9 配付数：7 回収数：7 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.4	4.7	4.5	4.4	4.2	4.1	4.2	4.4	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5

***評価に対するコメント**

コースコーディネーター **奥村利勝**

選択必修コース「EBMo・CPCコース」は開講し4回目を迎えた。30コマの中前半16コマをEBMコース、後半14コマをCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。選択者は、3年生7名で4年生2名の合計9名ではほぼ例年通りの参加人数であった。総合評価は4.5で開講以来(4.3-4.7-4.5昨年度)と一定した評価が得られている。総合評価とともに、私達が最も重視する問12(今後の学習意欲を増すか)の評価も4.8と満足できるものであり内容や進め方は適切と判断している。次年度も同様な内容でコースを構築する。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「臨床腫瘍学コース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：72 配付数：70 回収数：57 回収率：81.4%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.2	4.0	3.5	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

コーディネーター **高後裕**

臨床腫瘍学コースは、癌に関する基礎的・臨床的話題から疫学、臨床試験、緩和医療に至るまで幅広い領域を診療科の枠を超えて学習できるコースである。例年を上回る71名の学生が選択したが、出席に関する自己評価が4.2と大変高く、総合評価も4.1と好評であった。各専門家による得意分野の講義で、学生も興味深く出席し、その内容にも満足してもらえたものと考えられる。本コースでは、講義の内容が広汎かつ専門的であることから担当講師により作成された問題ならびにその解答・解説を、あらかじめ学生に公開し、その中から試験問題を出題する方法をとっている。試験に関する学生の評価は高く大変好評であった。昨今、がん医療に関する基盤的な幅広い知識が必要とされており、今後益々内容が充実されていくものと期待している。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：45 配付数：20 回収数：14 回収率：70.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.5	3.9	3.5	4.1	4.2	4.2	4.2	3.8	4.0	4.1	4.0	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター **羽田勝計**

当コースの目的は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を基礎分野から臨床分野にわたり幅広く専門的に学習することであり、従来の系統別の講義では紹介しきれない最先端の医学知識を得ることができるようプログラムされている。

学生からの評価は、科目構成および科目内容共に概ね4.0であり、一定の目的は達成できたものとする。一方で、自己評価の中の予習復習については、3.3であり、もし、この点が改善されれば、更なる深い理解を得られたものと今後期待したいところである。

3～4学年というコースを選択する学年の学習の進行状況を鑑みつつ今後のコース内容の改善策を考える上で参考にしたい。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「感覚器医学の最先端コース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数： 配付数： 回収数： 回収率：52.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.4	3.8	2.6	4.2	3.8	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9	3.7	3.8	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター 石子 智士

当コースは、感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを、眼科学、生理学、解剖学、耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、麻酔蘇生科学の15名の講師がそれぞれの立場から講義された。昨年と比較すると、科目構成・科目内容・総合評価のうち内容の重複に関する設問とレポートに関する設問で0.1ポイント評価が下がった他は、ほぼ前年より高い評価をいただいた。しかし、総合評価は依然として4.0を下回っており、今後より魅力的な講義を目指して改革する必要がある。個別の設問では、履修主題に沿った授業かどうかの問いには高い評価を得ている一方内容の重複に関しては低い評価であり、これは履修主題間・教員間というよりも臓器別・系統別講義の繰り返しという意見もあり、これらとの違いを明らかにした講義となるよう努力したい。また、レポートに関しては、昨年の評価を受け、今年度は最初の講義で説明をしたものの未だ不十分のようであり今後の課題としたい。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「救急・プライマリケアコース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：57 配付数：34 回収数：32 回収率：94.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.5	4.0	3.6	4.2	4.2	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.5	4.5

***評価に対するコメント**

コーディネーター 郷 一知

点数では概ね4.2～4.6点の評価を頂きました。履修の目的を「緊急を要する疾患、病態を通じてプライマリケアの基礎知識と実際を学ぶ」として、できるだけ実践形式にするよう努力しました。ところが受講生が60名余と実践には馴染まない人数になってしまい皆さんに満足いただけなかったかと思っていましたので、望外の評価でした。

受講された方の意見にもあったように、人数の制限をしなければこの形式の授業は無理だとこのような形式の講義の維持の難しさを感じさせられました。しかし、できるだけこの形式を維持したいと思いますので、次年度からは受講人数を30名程度に制限しようかと検討しているところです。

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：60.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.3	3.7	2.5	3.7	3.9	3.5	3.9	3.2	3.4	3.5	3.6	3.1	3.6

***評価に対するコメント**

コーディネーター 林 要喜知

学生評価の平均3.60であり、もう少し授業内容全般にわたって向上させることが求められている。特に反省しなければならない点は、問9や13がそれぞれ3.2や3.1である。具体的なコメントと合わせてみると、一つは教科内容にやや難易度の高い箇所があったとか、学期末の試験範囲が膨大であり負担が大きかった等があげられる。逆に、新たな発見や多面的な見方が看護学を学ぶ上で極めて有益であったとか、興味深い内容が多かったという意見もあった。本教科目に対して学生間にも様々な意見があることは、一人一人の学生に応じたより決め細かな対応が、講義の展開だけでなく質問対応にも求められることと理解している。そのため、講義の展開に合わせたフォローアップを早めに行っていく必要性が感じられる。定期試験に関しては、中間試験や小テストを実施することで、項目ごとにアクセントをつけたいと考えている。

科目名：人間科学Ⅱ（看護学科第1学年編入3年通年／必修）

履修者数：70 配付数：70 回収数：55 回収率：78.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	4.1	3.6	2.7	3.4	3.6	3.5	3.7	3.7	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5

***評価に対するコメント**

コーディネーター 藤尾 均

看護学科の第1学年と編入第3学年を対象とする人文・社会系の必修科目である。平成20年度の担当は社会学の専任教員が18コマ、倫理学の非常勤講師が7コマ、歴史の専任教員（筆者）が18コマ、病院長が1コマであった。学長も1コマ予定されていたが、諸般の事情で休止となった。評価は平年並みであったが、どの項目も、最悪であった昨年よりは0.2ポイントほど高かった。

本科目の発足から10年、筆者のコーディネーター歴も確か8年になる。科目名は「人間科学」と極めて漠然としている反面、教員の中には強い個性の持ち主もいて、科目としての明確なコンセプトを遂に確立できなかった。ある学生の「何のための授業なのかよくわからなかった」という率直な感想が、「言い得て妙」と筆者も思う。

この科目は平成20年度で姿を消した。筆者には、不完全燃焼のまま終わってしまったという後悔の念が残る。21年度からの新たなカリキュラムでは「看護社会論」「医療史・医療哲学」各1単位となり、科目名もコンセプトも明確になった。時間数も減ってコンパクトになった。心機一転、頑張りたい。

科目名：代謝栄養学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.0	3.6	2.8	3.6	3.7	3.5	3.8	3.9	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7

***評価に対するコメント**

コーディネーター 木村 昭治

代謝栄養学は基礎生化学と栄養学の授業配分が当初は均等であったが2年前より栄養学分野への配分を増やし現在その比率は3：2となっている。その理由の大きなものは看護では栄養学の知識が以後の講義においてのみならず現場でも必須であるからである。生化学の素養はその他の専門基礎科目を理解するために重要であるの言うまでもないが基礎的な事項、必要最小限に留めている。しかしながら学生は独学（大学では重要）も含め良く勉強しており、広い範囲をカバーする定期試験に於いて好成绩をとっている。学生の評価の中では栄養学により興味を持っているようで、おそらく内容がより実践的であるため純粋生化学よりも身近に感じられるためであろう。残念ながら本授業科目には専任の教官がおらず生化学分野は医学科の先生方に、栄養学は外部の先生にお願いしている。外部の先生の時間的な都合もあり3コマ続きの講義の設定を組まざるを得ずこの点学生の指摘通り改善の余地ありと思われる。限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際の支援は自身が求めれば各教官から容易に得られるであろう。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
 ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
 ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学実習Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.6	4.3	4.2	4.2	3.8	4.4	4.2	4.0	4.2	3.8	4.0	3.7	4.0	4.0	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

コーディネーター 立野 裕 幸

総合評価は4.2であり、全体として学生の勉学意欲に応えられたのではないかと考えています。この実習では、「洞察力、観察力の育成」を学習目標の中心に掲げ、顕微鏡観察、解剖、DNAの電気泳動等、医学的な内容を多く取り入れています。そのため、「医学部に入学したと実感した」という声がある一方で、高校時代に生物実習の経験が少ないため、実験器具の基本操作、観察の進め方、レポート作成、資料の選び方・活用法などに戸惑う学生が多いのも事実です。その分、教員側に適切な指導が求められますが、問6（指導教員数）、問11（技術の習得）、問13（レポート）の低いポイントに現れているように、学生の要求に十分応えるまでに至っていない点もあります。今後はこれらの点をできる限り改善し、すべての学生が次に続く専門分野の実習で着実に学習成果をあげることができるよう実施指導体制を整備していきたいと考えています。

科目名：生命科学実習Ⅱ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：93 配付数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.9	4.3	3.9	4.4	3.6	4.0	3.6	4.0	4.3	3.6	3.7	3.1	3.3	3.8	4.0	3.9	3.6

＊評価に対するコメント

コーディネーター 本間 龍 也

今年度は実習環境の面で高い評価を受けましたが、問6と問13の項目の評価が下がりました。原因は指導教員の不足とレポートをワープロでなく手書きに変えたことにあると考えます。来年度から助教が加わり教員3人体制になることで、前者は改善できるでしょう。手書きにしたのは、ワープロの方が教員も読み易く指導し易いのですが、手書きによる教育効果を考え改めて今年度から変更しました。しかし、レポートのまとめ方・提出方法等を含め今後も改善の余地はあるようです。表はA組とB組をまとめた結果ですが、問11と問14でA組（10月～11月に受講）よりB組（12月～1月に受講）で0.6ポイント近く高い評価を受けました。特に思い当たる点はありませんが、クラス間での評価の差をなくすよう努めていきます。今後も少しずつではありますが実習を改善し、全ての項目で4以上の評価を受けられるよう努めるつもりです。

科目名：生命科学実習Ⅲ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：90 配付数：84 回収数：84 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.8	4.8	4.6	4.0	4.5	4.0	4.2	3.8	4.2	4.1	3.9	3.9	4.0	3.7	4.0	4.1	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

コーディネーター 高橋 龍 尚

19年度と同様にA、B両組による項目ごとの評価差はほぼなくなりました。従来から懸念の事項でありますパソコン操作に由来する諸問題の改善は、引き続き重点をおいて進めて行きたいと思えます。一方、演習課題の遂行に関する、所謂学力差の解消と基礎力強化の問題については、レポート内容についてメール交換により、個別的な対応を充実したいと思えます。19年度は、実習時間内だけでは対応できなかったものについて、メール交換により解決するといった成果を認めました。

科目名：生命科学実習Ⅳ（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：92 配付数：81 回収数：34 回収率：42.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.6	4.2	4.2	4.3	3.9	4.2	4.0	4.1	4.1	3.9	3.6	3.5	3.8	4.1	4.1	3.9	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター **渡部 剛**

本年度は、実習解説講義で用いた顕微鏡写真を実習時間中にも液晶モニターで流し続けるなど、限られた実習時間での理解を深めるための工夫をこらしたが、例年と比較して実習に取り組む姿勢が真面目でない学生が多く失望した。怠けた結果、本科目が不合格となった学生は何が自分に足りなかったのかを良く反省し、次回の履修時にはがんばっていただきたい。また無事に合格した学生でも、今後、他の科目を学ぶ過程で正常の組織構築を確認したくなった場合には、解剖学講座顕微解剖学分野の研究室で顕微鏡実習標本を観察できるので、遠慮せずに来室して欲しい。

科目名：基礎医学実習Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：96 配付数：94 回収数：72 回収率：76.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.7	4.5	4.5	4.6	4.0	4.5	4.4	4.5	4.6	4.2	4.2	4.2	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6

***評価に対するコメント**

コーディネーター **吉田 成孝**

今年度の基礎医学実習Ⅰも昨年の反省点をふまえてマイナーチェンジを行った。実習の内容の時間配分を再検討し、過度な負担がかからない様に変更した。学生の評価自体は昨年度とほぼ同様であるが、例年通り充実した実習ができたものと考えている。もっと丁寧な指導を望む声と系統解剖と脳解剖の時間配分に対する不満も聞かれた。カリキュラムの構成上やむを得ない点もあるが、より適切に実施できるように工夫していきたい。次年度からは実習室の改修も予定されており、実習室の環境もこれまで以上に向上する予定である。さらに充実した実習としていきたい。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：88 回収数：81 回収率：92.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.4	4.3	4.1	4.2	3.9	4.0	3.7	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

コーディネーター **若宮 伸隆**

自由記載のコメント欄に「医学的興味がそそられる。」等の記述が見られ、本実習は、昨年度に引き続き好感を持って受講生諸君に評価されたと思います。

一方で、「説明時間が長い。説明は実験手順のみにしてはしい。」との意見もありました。実習内容が医学生物学的にどのように位置付けられるかを把握した上で、各実験で観察される現象を考察することが大切であると考えて解説を行っていますが、解説方法については改善の余地があるかも知れません。今後の課題にしたいと思います。自己評価項目である問2、3が、昨年度と同じく高得点であったことから、本実習が積極的に取り組む形で展開される体制は維持されていると思われます。これからも学生諸君の主体的な参加を期待しています。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：93 配付数：87 回収数：80 回収率：92.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.4	4.1	4.1	4.3	3.9	4.2	4.2	4.1	4.1	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

コーディネーター 立野正敏

評価はほぼ満足のいくものと考えます。基礎Ⅰでの病理学各論の講義と連動せず、3年生になってからの実習である点で問題が指摘された。ただ、実習を機会に基礎Ⅰでの知識を再確認したり、臓器別講義で説明される病気の組織学的変化に興味を持っていただきたい。一部標本の不備について暫時、新しいものと交換を行っているが、最近では入手困難な疾患の貴重な標本もあり、大事に使用していただきたい。将来的にはバーチャルスライドを用いて、DVDを配布することも考えてはいるが、やはり顕微鏡になじむことも必要と思う。アトラス的な教科書を図書館で借りる学生が多いため競合し、不便を感じるようであるが最近の教科書はカラー写真も多いので、再度教科書に当たり組織像を確認していただきたい。一部、教官が配布した画像つき資料や、CBT対策問題は代表的なものであり、最低限の理解が必要である。

科目名：人間科学実習（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.8	4.5	4.0	4.5	3.9	4.0	4.0	3.9	4.1	3.7	3.6	3.4	3.6	4.0	4.1	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

コーディネーター 林 要喜知

人間科学実習に対する学生の取り組みは、毎年、積極的かつ意欲的であり、今年は特に熱心な学生が多かった。そのような学年から4.0という総合評価を頂き、少しほっとしている。個別の項目でみると、評価が低めの項目は問13のレポートの量や内容であった。これは他の実習科目との重複時期があるため、レポートの作成作業に負担を感じた学生が多かったためと推測される。この重複は新カリキュラムで解決して頂く予定である。また、レポート分量が多すぎるというコメントに関しては、各課題に対するレポートの内容や適性量についても見直しする予定である。一方、具体的コメントでは、教員の声や聞き取りにくい、質問したい時に教員が中座している、指導にあたる教員数が少ないなど指摘があった。これらについては、指導の体制や方法における創意工夫をさらに重ねていきたいと考えている。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.6	4.4	4.5	4.0	3.9	3.6	4.4	4.5	3.8	3.9	3.7	4.2	3.9	4.2	3.4	4.1

＊評価に対するコメント

コーディネーター 升田由美子

科目全体の評価は4.1であり、他の項目もまずまずの評価だったと思います。今年の1年生のみなさんも看護技術習得に熱心に取り組んでおり、時間外での自己学習も活発に行われていました。

自由記載による意見には、物品の不足、実習室使用時間の延長、教員間の教授内容に差がある、等がありました。物品はできるだけ不足のないように配慮していますが、不備があれば遠慮なく申し出て下さい。実習室は平日7時半から19時まで利用できます。空き時間や放課後に有効活用して下さい。授業前には必ず教員間でミーティング・技術確認を行い、指導する内容に差がないようにしています。しかし、「差があり」、かつそのことを「先生には言わずらい」そうですが、ぜひ教えて下さい。その場で解決しないと困りますよね。それ以外のことも教員に気軽に質問や相談をしてほしいです。私たちは学生の皆さんとコミュニケーションをとって、よりよい授業、よりよい看護の学びの場としたいと考えています。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：57 回収数：56 回収率：98.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.8	4.6	4.7	4.7	4.2	3.9	3.9	4.3	4.6	3.8	4.2	4.0	4.1	4.1	4.4	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター 升田 由美子

今年から演習の構成を一部変更し、より学びやすくなるようにしました。特に学生同士の採血、皮内注射実施時に円滑に進むように配慮しました。

学生評価の結果は、ほぼ4点以上であり、目標としたレベルの授業に到達できたと考えます。3点台の3項目は、各々4名の学生が「良くない」「あまり良くない」と答えたことが反映しています。さらに教員間での連携調整と指導能力向上の研鑽に努めます。また、技術習得のために自由記載に述べられた貴重な意見（生体に針を刺す演習はできるだけ後半に実施する、ガラスアンプルの準備数を増やす、緊張感を作り出す環境）を参考に次年度の授業を企画したいと思います。

他に記載のあった「個人指導」「授業外での実施ができる時間」は今でも実施していることなので、希望する学生は人的資源である教員に声をかけて下さい。注射針、注射器などの物品の特性上、学生だけで自由に演習はできないので、手続きは面倒くさがらずにして下さい。この手間が「医療事故」を防ぎます!!

臨地看護実習企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料など、予習をしましたか。 問2 実習に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習計画	問3 実習目的・実習目標はガイダンスで明確に示されましたか。 問4 実習はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問5 学生数に対して指導教員数と実習指導者数は適切でしたか。 問6 指導教員と実習指導者の連携はとれていたか。
実習内容	問7 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていましたか。 問8 受け持ち患者の看護の難易度（コミュニケーションも含めて）は、適切でしたか。 問9 看護過程について、指導教員や実習指導者から適切な助言を得られましたか。 問10 看護技術を実践する機会が多く与えられましたか。 問11 カンファレンスで有意義な討議・討論が行われましたか。 問12 課された実習記録・レポートなどの量は適切でしたか。 問13 実習によって看護職者をめざす意欲が十分に高まりましたか。
実習環境	問14 実習場の設備・機材・用具・物品等は必要十分な質と量でしたか。 問15 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問16 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問17 この実習は全体として満足できるものであったか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：看護過程論実習（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：55 回収数：55 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.8	4.5	4.4	4.1	3.9	4.0	4.0	4.2	3.7	3.4	3.5	4.2	4.2	4.1	3.6	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター 升田 由美子

今年度より、実習を前半と後半の2クールに分け、5病棟で実施しました。評価内容については例年と大きな変化はありませんでした。また前半・後半共に「自分たちのほうがたいへんである」という意見はありましたが、全体では2クールでの実習展開に賛成という反応でした。他に病棟数を絞った効果として、看護技術を体験する機会が大幅に増加しました。

自由記載には物品の不足、記録量の不公平さ、教員の指導などに関して意見がありました。真摯に受け止め、善処したいと思います。臨地実習は臨床と患者さんがいて初めて実施可能であり、臨床とはダイナミックに変化しかつ一人として同じ患者さんはいません。ですから、同じ量の記録、同じ内容の指導は不可能です。同様に学生の皆さんのレディネス（学習の準備状況）も異なっています。教員は患者さん、学生両者の状況をアセスメントして学習目標を設定し、指導していることはご理解いただきたいと切に希望いたします。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.1	4.7	3.6	4.4	3.5	3.0	3.5	3.9	2.7	2.8	3.4	3.9	3.5	3.9	3.7	3.7	3.8

***評価に対するコメント**

コーディネーター 岡田 洋子

評価表が臨地看護学実習と同じため、保育園実習評価として適合しない設問もあるが、最も高い評価項目は「実習に積極的かつ真面目に参加した」の4.7点、最も低い評価項目は「看護過程について、指導教員や実習指導者から適切な助言が得られたか」の2.7であった。子どもと接する経験が極めて少ない現代学生は、子どもからの積極的な誘い（遊び相手として）を受け、自分を受け入れ・必要としてくれる子どもに助けられながら、関係性を築いている。保育園実習は、園長先生をはじめ保育士さんの温かな支援を得て、机上で学んだ「知識」を、子どもに慣れ子どもを理解する「知識」へと深めていく上で、貴重な体験学習の機会となっている。

学生の評価の特徴は、自己評価が高いこと、実習でお世話になった方々への感謝の気持ちが感じられず要求・不満が多いこと、建設的な意見としてではなく要求・不満で終わらせていること（私のこの見解が見当違いであることを祈りつつ）。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：70 配付数：62 回収数：62 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.5	4.7	4.5	4.2	4.1	4.1	4.3	3.9	4.2	3.4	4.0	3.6	4.2	4.0	4.1	4.3	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター 北村 久美子

実習の目的は、地域で生活している人々を対象とした看護を体験し地域保健・看護活動を実践できる基礎的能力を養うことである。本実習は、3学年後期10月、11月にわたる大学近郊の市町村役場と市内の訪問看護ステーションでの実習である。

市町村役場の実習は、美瑛町・比布町・愛別町・東川町・中富良野町・南富良野市でした。訪問看護ステーションは、例年受けて頂いている市内5施設と新規こもれび訪問看護ステーションの6施設であった。講義・演習・実習を一貫させた教育プログラムの基に、実習前には看護技術演習、学生個々に実技試験を実施した。町村役場の実習では実習前に実習町に向き地区視診（地区診断）を行った。実習指導体制として恒例の実習指導者会議を3月実習評価会と9月実習打合せを行い教員と実習指導者として綿密な実習準備を行った。

総合評価は、昨年度より0.1点あがり4.3点であった。例年ながら学生の声は「楽しかった」「勉強になった」「職業の選択肢が広がった」など満足しており、現場での実習指導者によるご指導の賜と感謝し実習の意義を受け止めている。町の地区視診（地区診断）をふまえグループで取り組む「健康教育」は住民に好評で指導者からも高く評価されていた。今後も学生が実習に意欲的・主体的に取り組め満足出来るよう実習方法を工夫していきたい。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：55 回収数：55 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.7	4.4	4.4	4.3	3.8	4.2	4.4	4.0	3.9	4.3	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター 黒田 緑

母性看護学実習は、健康な妊産褥婦を対象に実習する。また、2世代を対象とする特徴などにより、学生たちからは問題が見つからず難しいとの声を聞く。また、健康な妊産褥婦を中心とした講義とは異なる対象を受け持たざるを得ない状況の中で、指導者、教員および学生の相互の関わりを経てそれぞれの課題がおおむね達成できたと考える。

今後の課題として、臨地実習におけるカンファレンスを有意義なものとし、形式に終わらせず、看護ケアに反映できるように導くこと。また、ケア提供者としての学生の自覚をさらに促すような働きかけを臨地実習指導者の方々とともに行う必要があると考える。

科目名：精神保健看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：55 回収数：55 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.3	4.7	4.6	4.7	4.0	4.0	4.4	4.2	4.4	4.1	4.1	4.4	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター 作宮 洋子

精神保健看護学実習は旭川医科大学病院及び市内にある旭川圭泉会病院での2単位の実習ですが、主に、病院における臨床に主眼をおいて、治療の場での看護ケアを体験し実習できるように計画しています。さらに、実習の最終日は地域社会とのつながりや社会復帰支援への理解を深めるためにデイケア施設での実習を取り入れています。

評価全般において、4.0あるいは4以上の高い評価であり、学生の自己評価も高く、有意義な実習であったことは実習指導者のご指導の賜物と感謝いたしております。

精神保健看護の役割は、医療・保健・福祉などさまざまな分野で、今後、一層大きくなると予想され、実習での学びを看護実践に活用されることを期待します。

今回の学生評価や意見を受けて、両協力病院の臨床指導者の方々の協力を得ながら、さらに充実した内容となるよう努めていきたいと考えております。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：57 回収数：57 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.2	4.6	3.3	3.6	3.4	2.8	2.4	3.5	2.5	3.0	3.0	3.1	2.5	3.5	3.4	2.8	2.7

***評価に対するコメント**

コーディネーター 岡田 洋子

学生自身に関する自己評価は、例年どおり4点台と高い。実習計画では、「指導教官と実習指導者の連携はとれていたか」が最も低かった。指導教員は今年3月までこの実習病棟に勤務しており、連携は「あうん」の呼吸で発揮されていた。しかし、学生には見えなかったかあるいは学生が求める連携ではなかったようである。実習内容では「実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていたか」が最も低かった。暗記中心の学習・思考に終始し、学習内容の統合や応用能力、看護への適用能力といった課題が背景にあることが推測される。

昨年最も低かった「看護技術を実践する機会が多くあたえられましたか」は、今年も低かった。実習環境に関する評価・総合評価も共に低く、今年も学生自身に関する自己評価「実習に積極的かつ真面目に参加した」等のみが4点台と高い、学生の教員評価の特徴が示された。教員は、学生の実習への取り組みを動機づける任を担っていると言える。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配布数：56 回収数：56 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.8	4.4	4.5	4.3	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.0	3.9	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

コーディネーター 加藤 千津子

「成人看護学実習Ⅰ」は、主に周手術期の患者を対象とした3週間の実習です。実習は、1週目を手術室見学実習・ICU見学実習（本年度より実施）・学内での看護技術演習、2・3週目を外科系病棟（消化器係・循環器系）2病棟における病棟実習で構成しています。

例年、自分自身に対する学生の評価は高いのですが、実習の参加に対する得点が4.8とここ数年で最高点となっています。特に20年度は、資料を読むだけでなく、必要な予習をして実習に取り組む学生が多かったように思います。「学内演習を実習で活用できた」という自由記載もあり、実習計画の評価も4点台であることから、実習構成の意図を、学生は効果的に活用できていたようです。

また周手術期の特徴上、難易度の高い受け持ち患者が多いのですが、学生が積極的に実習したことや看護過程への助言を行うことで、患者の難易度は適切とする得点も高くなっています。しかし、難易度が高い患者を受け持つことで、日々の記録や看護過程が複雑化してしまうため、記録に関する得点が3.9とやや低くなっているのではないかと考えられます。

実習環境や総合評価も4点台で、概ね良好な評価となっていることから、今後も実習病棟と協力して学生の高い満足感を維持できるように、実習を工夫したいと思っております。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：55 回収数：55 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.7	4.4	4.4	4.3	3.8	4.2	4.4	4.0	3.9	4.3	4.2	4.2	4.4	4.3	4.3	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター 加藤 千津子

成人看護学実習Ⅱは、慢性疾患をもち生涯コントロールを要する対象者あるいは人生の終焉を迎える終末期にある対象者を受けもつ実習であり、2病棟で実施している。昨年の評価および意見を踏まえて努力した結果、すべての項目が上昇し平均値で0.29ポイントの上昇がみられ、総合評価の満足度においても4.2と良好であった。昨年との相違点は実習内容に関わる（問10を除いた）問7～13において4.0～4.4と高い評価であり、特に問11のカンファレンスに関しては0.5ポイントも上昇しており、実習中より教員は活発な意見交換があり充実した内容であることを実感していた。また、実習環境についても0.33ポイント上昇しており、臨床の協力を感謝するとともにさらなる努力をしていきたいと思う。また、本実習は3週間を同一病棟で実習する唯一の実習であり実習期間が長いなどの意見も聞かれるが、慢性状況および終末期にある対象者の特徴を理解してさらに学習を深めてほしいと願う。

科目名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）

履修者数：70 配付数：62 回収数：62 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.7	4.3	4.6	3.8	4.3	4.2	4.0	4.0	2.9	4.5	3.8	3.9	4.0	4.3	4.4	4.2

***評価に対するコメント**

コーディネーター 北村 久美子

実習施設は、公衆衛生行政機関で北海道庁から言い渡された上川保健所と富良野保健所と2度目の旭川市保健所であった。6月に保健所の実習指導者に大学まで来て頂き打ち合わせ会議を開催し、その後も教員が詳細に連携を取り実習準備を行った。教員が作成した実習マニュアルに基づき学生が実習に興味・関心が持て主体的に取り組めるよう実習前・中をとおり実習指導を行った。その結果、19年度と比較しほとんどの項目の評価が高く総合評価は0.4点上がり4.2点であった。指導体制として教員・指導者数は不足しているが教員と指導者の連携がよくとれているという学生の評価であった。また、カンファレンスが有意義だったとする評価が4.5点と最も高かった。逆に、看護技術体験の機会が与えられたかが2.9点で最も低く、このことはその機会が無く保健所保健師活動の現状を現していると思われる。学生の多くは看護師就職希望者であり、保健師活動に関心を向けることは今年も並大抵のことではなかった。次年度以降、北海道道庁が本学の実習施設は上川保健所と旭川市保健所を指定したことから1施設あたりの学生数が多くなるためさらに実習方法の変革が求められる。3月に実習指導者と実習評価会を予定しており、学生にとって満足感が得られ有意義な実習であるよう検討したい。

平成21年度 医学科第2年次後期編入生入学式

平成21年度医学科第2年次後期編入学生の入学式が平成21年10月1日(木)午前10時00分より事務局第一会議室において執り行われました。

当日は、吉田学長より編入学生に対して祝辞が述べられ10名が旭川医科大学学生としての新たな一歩を踏み出しました。

編入学生は以下のとおりです。

石 王 応 知	・ 齋 藤 善 也	・ 関 智 行
永 幡 研	・ 山 田 理	・ 我 妻 久美子
今 了 資	・ 更 科 耕一郎	・ 田 木 聡 一
保 立 裕 史		



クリスマスコンサート(室内合奏団)

平成21年12月12日(土)14時30分から病院玄関ロビーにおきまして、本学の室内合奏団により「クリスマスコンサート」が開催されました。イギリスのクリスマスキャロル「We Wish You A Merry

Christmas」から始まりクリスマスソング全5曲が演奏されました。途中、サンタクロースが現れて来場された皆様に手作りのクリスマスプレゼントを渡し大変喜んでいただいたようです。



クリスマスコンサート(合唱部)

平成21年12月19日(土) 16時00分から病院玄関ロビーにおきまして、本学の合唱部により「クリスマスコンサート」が開催されました。曲にあわせて可愛いサンタクロースやトナカイ、くまのプーさ

んが登場しダンスの披露と来場いただいたお客様へ手作りのクリスマスプレゼントを手渡していました。来場の皆様の心に優しい歌声や演奏を届けられたようで沢山の拍手が贈られて幕を閉じました。



クリスマスコンサート(ブラスアンサンブル)

平成21年12月20日(日) 14時00分から病院玄関ロビーにおきまして、本学のブラスアンサンブルにより「クリスマスコンサート」が開催されました。毎年恒例のコンサートですが、定着したファンの多いコンサートで今回も沢山の皆様が来場されました。演奏は3部構成による全11曲で、第1部では「崖の上のポニョ」など3曲、第2部では曲のイメージに扮装した部員によりサクソファンアンサンブルにて

1曲、ホルンアンサンブルにて2曲が楽器紹介を交えながら、第3部では「恋人たちのクリスマス」などのクリスマスソングをサンタクロースの扮装をした1年生部員がダンスを披露しての演奏や卒業生がソリストの演奏など4曲が演奏されました。最後にアンコール曲として「君の瞳に恋してる」が演奏され、大盛況のうちにコンサートが終了しました。



教員の異動

H21.10.1	昇任	病院小児科	講師	古谷野 伸
H21.11.16	採用	医学部病理学講座（腫瘍病理分野）	教授	西川 祐司
H21.12.1	昇任	医学部病理学講座（免疫病理分野）	講師	小林 博也
H21.12.31	逝去	医学部看護学講座	教授	岩元 純
H22.1.1	採用	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	教授	古川 博之
H22.1.16	採用	医学部脳神経外科学講座	教授	鎌田 恭輔

外国人留学生交流事業

平成21年度の外国人留学生交流事業が12月23日(水)、24日(木)の2日間の日程で、本学に留学している学生とその家族、研究者として在籍する外国人とその家族及び関係教職員の7ヶ国、合計29名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらふことにより、旭川医科大学の在るこの北海道の良さを再認識してもらふとともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と教職員との交流を図ることを目的としたものです。

今年度は、登別温泉を宿泊地として登別市内に

ある水族館（マリンパーク・ニクス）を見学することを目的に計画されました。

当日は、夕方に宿泊施設に到着し夕食の後にカラオケを交えた交流事業が実施され普段はなかなか話をする機会の少ない教職員とも大変賑やかな中で意見交換会が行われました。

翌日の水族館では、イルカのショーやキングペンギンの行進などを見学し、それぞれの国では観る機会の少ない魚や生物に驚きの声を発したりと、楽しい時間を過ごしていただいたようです。その後、北海道大学に移動して食堂にて昼食の「ハラルランチ」を摂っていただき、夕方には本学に到着して外国人留学生交流事業が無事終了しました。



▲いざ、ニクス城へ



▲マリンパークニクス入口です。



▲宿泊施設にて



あしかのショー▶ (練習中)



◀キングペンギンの行進

平成22年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。

希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

申込み期限 平成22年4月12日(月)

※一括(年額)納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

(会計課出納係)